

2011年5月27日

コンプライアンス・CSRレポート
(2010年度)

関西テレビ放送株式会社

目次

第1	はじめに	(1)
第2	2010年度の経過	(2)
第3	番組制作等について各部門の取り組み	(5)
	(1) 放送倫理会議の活動	(5)
	(2) 「S-コンセプト」他、本社番組制作部門の取り組み	(8)
	(3) 東京編成制作部門（東京コンテンツセンター）の取り組み	(9)
	(4) 報道部門の取り組み	(10)
	(5) スポーツ部門の取り組み	(12)
	(6) メディア戦略部門の取り組み	(14)
	(7) ライツ関連部門の取り組み	(16)
	(8) 技術部門の取り組み	(17)
	(9) 営業部門の取り組み	(20)
	(10) イベント開催部門の取り組み	(21)
	(11) 番組審議会の活動	(22)
第4	視聴者の方々とつながる取り組み	(25)
	(1) オンブズ・カンテレ委員会の活動	(25)
	(2) 視聴者の皆様からのお問い合わせ等への対応と 「月刊カンテレ批評」等	(27)
第5	メディアリテラシー等 全社的なCSR活動について	(34)
	(1) メディアリテラシー推進活動の現状	(34)
	(2) 環境対策等について	(37)
	(3) CSR活動の向上を目指して	(38)
	(4) 会見、ホームページ等、企業情報の開示状況	(39)

第6	コンプライアンス態勢の構築	(42)
	(1) リスクマネジメント態勢等の確立について	(42)
	(2) 情報セキュリティ態勢について	(43)
	(3) コンプライアンス・ラインの運用について	(43)
第7	経営機構等について	(45)
	(1) 改革推進本部の状況について	(45)
	(2) 関係会社とグループ政策について	(45)
第8	放送人倫理の確立に向けた 教育・研修等	(46)
第9	おわりに	(47)

第1 はじめに

当社は、2007年1月の「発掘！あるある大事典Ⅱ」捏造問題以来、その原因を究明し、再発防止策を含む調査結果を随時「報告書」として公開してまいりました。また、2008年4月からは「コンプライアンス・CSRレポート」として、この問題だけに限らず、当社の放送倫理に関する考えや企業活動を視聴者の皆様に広く公開してまいりました。

そして今、私たちは「エリアで最も必要とされるコンテンツ・メーカーになろう！」また「ライフラインとして信頼されるテレビ局を目指そう！」を中期経営計画の柱として、放送人として日々研鑽を重ね、2011年7月24日に迫った地上波テレビ放送完全デジタル化に向け番組の質的向上に取り組んでいるところです。

しかし、放送をはじめメディアを取り巻く環境は、めまぐるしく変化しています。私たちの前には、政治、経済、国際関係の緊張の高まりに加え、3月11日に発生しました巨大地震と津波、それに原発事故という厳しい現実が立ちはだかっています。

この東日本大震災につきまして当社は、FNS系列の一員として「ひとつになろう日本」というキャッチフレーズのもと、各番組を通じて、募金をはじめとした復興への協力を積極的に行っております。4月末までに、視聴者をはじめとする皆様から集まりました募金は、系列全体で15億円あまりに上り、一旦、日本赤十字社に贈られました。

また震災報道では、発生直後から61時間にわたりCMを挟まず特別番組を放送し、被災地へ記者、カメラマン、中継スタッフを派遣したほか、被災地の系列局への物的応援も行いました。

この「コンプライアンス・CSRレポート（2010年度）」は、これらの内容を含む2010年4月から2011年3月に至る期間の私達のさまざまな取り組みを視聴者の皆様にご報告するものです。今後ともよろしくご支援いただきますようお願いいたします。

第2 2010年度の経過

- 4月 1日 (木) 新卒社員13名入社
ソーラー発電付自販機設置
- 4月 6日 (火) 関西大学社会学部の「マスコミ制作実習」講義開始
- 4月 8日 (木) 新入社員に対し、コンプライアンス関連研修
- 4月14日 (水) 第19回放送倫理・コンプライアンス研修会「カンテレブランドの維持と内部統制」(山口利昭 講師)
- 4月19日 (月) USBメモリー等取扱のセキュリティ強化実施
- 4月23日 (金) オンブズ・カンテレ委員会 第4回会合
オンブズ・カンテレ委員会特選賞 番組部門「ザ・ドキュメント 父の国 母の国ーある残留孤児の66年ー」
イベントその他活動部門「アナウンサー朗読会」に決定
- 4月26日 (月) 立命館大学産業社会学部との2010年度共同研究「テレビとは何か、原点としてのテレビを考える」開始
- 5月 2日 (日) 「冒険 キッズパーク」開催 (4日まで)
- 5月 6日 (木) ドキュメンタリー「あの日の僕に出会えたら」ギャラクシー
奨励賞受賞
- 5月26日 (水) 屋上テラス 緑化で、サツマイモ、ゴーヤを栽培
- 5月27日 (木) 「ダイヤモンドカップゴルフ2010」チャリティー
(30日まで)
- 5月28日 (金) 決算取締役会開催、全体会議開催
決算取締役会の報告社長記者会見
「コンプライアンス・CSRレポート(2009年度)」を発表
- 6月 1日 (火) 人事異動及び機構改革
編成制作局東京コンテンツセンターの組織を改革
「クールビズ」実施 (9月30日まで)
- 6月 4日 (金) 第4回リスクマネジメント会議開催
- 6月 7日 (月) メディアリテラシー 寝屋川市の中学校へ社員を講師派遣
- 6月16日 (水) 阪急百貨店にて「よ〜いドン! 食覧会」開催(22日まで)
- 6月21日 (月) 「CO2ライトダウンキャンペーン」照明など消灯(7月7日も)
- 6月25日 (金) 第69回定時株主総会
会長、社長、専務1名、常務3名他重任
- 6月26日 (土) キンダーフェスティバル 開催
- 6月27日 (日) 3000人の吹奏楽 開催

- 7月 7日 (水) 心でつながるPJチーム 新メンバーでの初会合
- 7月 8日 (木) 第52期委員による番組審議会スタート
- 7月 9日 (金) 個人情報保護 社内講習会 開催
- 7月13日 (火) メディアリテラシー 堺市の中学校へ社員を講師派遣
メディアリテラシー 高校生によるドキュメンタリー制作
支援開始
- 7月14日 (水) 第2回コンプライアンス委員会開催
- 7月16日 (金) 第5回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
- 7月18日 (日) S-コンセプト「スッキリ!グッスリ! ココロとカラダの
快適学」放送
- 8月 1日 (日) 親子サイエンスフェア 開催
- 8月 5日 (木) 夏期社長定例記者会見
- 8月 7日 (土) 社屋内アトリウムで「88まつり」開催 (8日まで)
- 8月28日 (土) 「第9回アナウンサー朗読会」開催
- 9月 7日 (火) メディアリテラシー 富田林市の中学校へ社員を講師派遣
- 9月10日 (金) 10月改編記者発表会を開催
メディアリテラシー 寝屋川市の大学へ社員を講師派遣
- 9月14日 (火) メディアリテラシー 大阪市の小学校へ社員を講師派遣
- 9月25日 (土) S-コンセプト「オサカナと食卓の科学」放送
- 9月28日 (火) ACAP創立30周年 記念シンポジウムに担当者参加
- 10月 1日 (金) 新型ヘリコプター「ハチドリ」導入
- 10月16日 (土) 児童虐待防止協会設立20周年感謝状拝受
- 10月16日 (土) イベント「はたらくくるま」に中継車とSNG車を展示
- 10月22日 (金) 在阪局・BPO検証委 意見交換会に担当者参加
- 10月29日 (金) 第6回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
- 10月24日 (日) メディアリテラシー関連新番組「テレビのミカタ」スタート
- 11月 7日 (日) メディアリテラシーイベント「オープンスクール@カンテ〜レ」
パネルディスカッション、公開授業、展示など
- 11月11日 (木) リスクマネジメント会議開催
- 11月13日 (土) S-コンセプト「ニッポン!農業研究所」放送
- 11月17日 (水) 秋期社長定例記者会見
- 11月17日 (水) コンプライアンス・CSRレポート(2010年度上半期) 発表
- 11月20日 (土) 「民放技術報告会」にて「リアルタイム字幕システム」を発表
- 11月25日 (木) 「FNSあんたが大賞」審査で「機材予約システム」が技術
部門賞受賞、
- 11月28日 (日) 神戸大学大学院の経営に関するシンポジウムにて社長が講演

- 1 2月22日(水) デジタルサイネージ実証実験スタート
2011年
- 1月20日(木) 堺市内の高校に「キャリア講演」で社員を派遣
1月21日(金) 第7回 オンブズ・カンテレ委員会 開催
1月27日(木) 神戸市内の小学校に社員を講師派遣
1月27日(木) 新春社長定例記者会見
1月30日(日) 大阪国際女子マラソン 第30回記念大会開催
2月 2日(水) 当社社員との共同研究で立命館大学の学生が「テレビとは何か、原点としてのテレビを考える」をテーマに研究発表
3月 2日(水) リスクマネジメント会議開催
3月11日(金) 東日本大震災発生
CMなし報道特別番組を61時間にわたり放送
被災地に取材陣派遣
3月19日(土) チャリティーキッズ 開催
3月20日(日) 心でつながるPJチーム 奈良県立橿原高校および京都光華高校制作ドキュメンタリー作品上映会を当社内で開催
3月30日(水) 「淀川の巨大ナマズ 知られざる生態」日本映像テレビ技術協会の「2010年度映像技術奨励賞」を受賞
3月31日(木) 地上デジタル中継局144局へ

第3 番組制作等について各部門の取り組み

(1) 放送倫理会議の活動

2009年6月に「放送倫理部会」が改組されて発足した「放送倫理会議」は、2010年度も引き続き毎月1回開催され、コンプライアンス推進・総務担当取締役を座長に、編成制作局、報道局、スポーツ局など番組制作部局の責任者に加え、営業局、ライツ開発局、メディア戦略局など番組に間接的にかかわる部局の責任者も出席して、番組および放送全般の倫理にかかわる課題を討議しています。

また、放送倫理会議は当社の番組審議会審議事項、ならびに独自の第三者委員会であるオンブズ・カンテレ委員会の討議内容、そして社外からの声として、視聴者の皆様からのご意見や苦情、さらには、日本民間放送連盟や、放送倫理・番組向上機構（BPO）の決定などを社内に周知させる場としても機能しています。

そのような中、今後の課題として、放送倫理会議における討議内容を広く社内に浸透させるための方策を現在検討しております。

以下、2010年度に12回開催されました会議の主な内容を記します。

*第11回（4月13日）

- ・メンバーが不祥事を起こしたため放送を自粛していたプロレス団体について、スポーツ部から現状の分析と放送再開の方針について説明がありました。
- ・いわゆる「TBSブラックノート事件」に対するBPOの意見書ならびに、BPOの「バラエティ番組に対する意見書」を受けフジテレビが制作した番組「悪いのはみんな萩本欽一である」について検討を加えました。

*第12回（5月17日）

- ・オンブズ・カンテレ委員会による特選賞番組部門に「父の国 母の国 ーある残留孤児の66年ー」、イベント部門にアナウンサー朗読会が選ばれたことが報告されました。
- ・報道部局担当者から、大阪府知事の取材、番組出演に関して、知事としての立場と政治団体の代表としての立場の区別が難しく、慎重な判断が必要であることが指摘されました。
- ・ビデオパッケージとして制作し、放送の可能性も考えられる自衛隊を取材対象とした企画に関し、担当部署から説明がありました。それに対し、安直な自衛隊の宣伝にならないよう、また自衛隊以外も取材して、シリーズ全体として片寄った作品にならないようにすることなどの意見が寄せられました。

*第13回（6月15日）

- ・番組審議会委員の交代について事務局より報告と説明がありました。

- ・週刊誌でとばく疑惑が報じられた力士が出演していた収録済みバラエティ番組の取り扱いについて議論がありました。疑惑のみの段階であえて出演部分をカットするべきではないとしてそのまま放送した判断、その後、警察の捜査などによって事実が確かめられたのち、番組販売用素材について再編集を行った経緯の説明がありました。
- ・その他トーク番組における出演者の「過労死」発言、情報番組でのイスラエル取材などの事例について検討を行いました。

*第14回（7月13日）

- ・10月に初めて大阪で開催されることになった、BPO放送倫理検証委員会と民放との意見交換会について、民放連の考査事例研究部会と放送の自立に関する専門部会の新しい枠組みについての説明がありました。
- ・番組内で電子レンジでの卵の調理紹介を見て、自宅で同じように調理してやけどをしたという視聴者からのメールについて、放送に至った経緯を検証するとともに、以前の事例の再検討も含めて、改めて注意を喚起しました。

*第15回（8月30日）

- ・放送画面のレターボックス化に伴って、一部アナログテレビに備わっている自動で画面のサイズを変更するシステムによって、気象警報などのスーパーが読み取れなくなるという視聴者からの指摘について、対応の必要性、技術的可能性を論議しました。
- ・ニュース番組に出演した元国会議員の発言内容に対して、政治評論家が事実と異なるとネット上で抗議、反論を行った件について、内容の訂正の是非、その方法、放送法に規定される訂正放送との関係などを検討しました。

*第16回（9月21日）

- ・新番組のドラマの番組宣伝スポットに関し、視聴者から「気分が悪くなった。サブリミナル要素を含んでいるのではないか」との指摘があったことに対して、サブリミナル効果があるものではないが、一部映像が見る人に対し刺激が強すぎる恐れもあったため、編集し直して放送した経緯を担当者から報告を受け、検討を行いました。
- ・バラエティ番組で条例によって禁止されている料理を提供する飲食店を紹介した件について、番組内、当社ホームページ上でのおわびなどの対策、問題が起こった要因、再発防止策などについて論議しました。

*第17回（10月19日）

- ・フジテレビとの共同制作番組である「Mr.サンデー」において、事前に手配していた取材対象の女性を取材中に偶然見つけたように見せかけていたとの視聴者からの指摘を受けて、番組内での謝罪に至った問題に関して、発生の経緯と当社の関わりについて、担当部署から説明がありました。問題の発覚から事実関係の確認までの間に時間がかかった点、共同制作番組においても当社が責任ある対応を取れるような取り組みが必要だという点などについて議論を行いました。
- ・「よ〜いドン！」内で放送された、番組本編から自然につながるように流れるCMの

試みについて、CMと番組は区別できなければならないと定めている放送法上の観点から、どのような問題があるのかについて検討しました。

*第18回（11月15日）

- ・前月も議論した、「Mr.サンデー」での不適切表現に関する、フジテレビからBPOへの報告書の内容、フジテレビの再発防止への取り組み及び今後の見通しについて、担当部署から説明がありました。

*第19回（12月13日）

- ・「Mr.サンデー」不適切表現問題を検証する、フジテレビ情報制作局を中心とした調査委員会の活動について、当社から委員として出席している担当者より報告がありました。また、他局で続いて発生している同様の事案との比較検討を行うとともに、調査内容の社内への周知の方法について論じました。
- ・BPO放送倫理検証委員会決定「参議院議員選挙にかかわる4番組についての意見」について、報告を行うとともに、選挙における候補者の扱い、公平性の確保について注意を喚起しました。

*第20回（1月18日）

- ・「Mr.サンデー」不適切表現問題が、BPO倫理検証委員会で審議対象にならなかったこと及びその決定の背景について、担当者より報告がありました。内部調査報告書を当社での番組制作にどう生かしていくべきかを議論しました。
- ・「発掘！あるある大事典Ⅱ」問題後に制作してから、4年が経過する「番組制作ガイドライン」の改訂作業について、出席者の意見を聴き、どのような形で作業を進めていけばよいのか検討しました。

*第21回（2月22日）

- ・改正放送法施行に伴い、番組の分類方法が一部変更されるとともに、公開が義務付けられることについて、公開方法、頻度などの施行細則がどのように制定されるかの見通し、及びその対応について検討しました。
- ・「R-1ぐらんぷり 2011」の番組内で使用された一部音楽が、適切に権利処理されなかった問題について、発生の経緯を検証しました。また、権利処理の難しい音楽を使用する場合の対策、今後の同様の問題の防止の方法を検討しました。

*第22回（3月23日）

- ・事務局より「番組制作ガイドライン」改訂の基本方針を提示し、各担当における検討を要請しました。
- ・東日本大震災の発生を受けて、災害時の番組編成や報道体制、CMの問題、野球やサッカーなどのスポーツ団体の反応など、各セクションでの現時点での対応について報告がありました。

(2) 「S-コンセプト」他、本社番組制作部門の取り組み

1) 番組全般について

番組の編成制作部門では2010年度も、視聴者の皆様楽しんでいただける良質の番組をお届けできるように日々努力を続けてきました。

毎週月曜日から金曜日の9時55分～11時20分に生放送をしています「よ～いドン!」は、多くの視聴者の皆様にご好評をいただき、関西を代表する朝の情報番組としてすっかり定着いたしました。また、地域の問題、話題を積極的に掘り起こしてきた夕方の報道番組「スーパーニュースアンカー」も、番組開始から5年を経て、夕方に居並ぶニュース番組の中でも視聴率も高く、より多くの皆様の信頼をいただいていると感じております。

2010年4月の番組改編では、土日の午後に新番組をスタートさせました。土曜日13時～14時の「世間の裏側のぞき見バラエティ ウラマヨ!」は、2010年度に大躍進した人気漫才コンビ・ブラックマヨネーズの司会で、人・モノ・社会の裏側などを司会者とパネラー陣の軽妙なトークを交えながら見ていただく楽しいバラエティ番組として好評をいただいています。また、土曜日18時30分～19時の「雨上がり食楽部」では、ゲストの食にまつわるトークを展開しながら、食や健康など暮らしに役立つ情報性も高め、多くの方に楽しんでいただける番組に成長いたしました。

これまでプライムタイム（19時～23時）に4つのドラマを放送してきましたが、10月から日曜日21時にもドラマが登場し、合わせて5つのドラマを放送。さらに幅広い視聴者の皆様のニーズに応えられるよう、ホームドラマからラブストーリー、サスペンスと多様な内容でお楽しみいただいています。

当社が制作している火曜日22時のドラマについては、2010年4月は、救命救急の現場を舞台に病気の原因を究明する新スタイルの医療サスペンス「チームバチスタ2 ジェネラルルージュの凱旋」を、7月は、冤罪を晴らすために逃亡する若き弁護士を通して、法律や法曹界に一石を投じたサスペンス「逃亡弁護士」を、10月は、冤罪から復讐に燃える女性の深い心の闇を豪華キャストで描いた「ギルティ 悪魔と契約した女」を、そして2011年1月は、仲間由紀恵が悪女を演じたサイコサスペンス「美しい隣人」を放送しました。

3月11日に発生しました東日本大震災では、発生から61時間連続でCMのない報道特番を放送しました。その後も現地からの情報を最優先に考え、1週間にわたって、お昼の時間帯を中心に報道特番を続けた他、それ以降も様々な特番対応を行いました。過去に前例のない未曾有の災害は、放送対応についても過去に前例がなく、今回の対応を検証して、今後の災害報道に生かしたいと考えています。

2) 「S-コンセプト」について

「健康」・「体」・「科学」にまつわる素朴な疑問や関心を科学的な目線で正確に分かりやすく紹介する「S-コンセプト」シリーズは、2007年以降16本を制作してきましたが、2010年度は新たに3本を制作しました。

まず、7月に放送された「スッキリ！グッスリ！ココロと体の快適学」では、「睡眠のお悩み」「ストレスと癒しの科学」「快適な夏の暮らし」の3つのテーマを最新の実験などを交えてわかりやすく解説しました。

続いて9月に放送しました「オサカナの科学～海からの贈り物を未来の食卓へ～」は、2年前に「S-コンセプト」で放送された同じタイトルの番組の第2弾として制作され、地球環境が変化する中、魚食大国・日本と深くかかわる魚介類の現状を多方面から科学的見地で分析し、その現状を伝えました。

また、11月には「ニッポン農業研究所～知っているようで知らない農業の秘密～」を放送しました。食の安全が叫ばれる今、農業の現状を実際の農家での体験レポートや農業科学の最前線情報も交え、あらゆる角度から農業に迫りました。

3) 受賞関係

「よ～いドン！」の演出を担当している制作部の若手ディレクターが「関西ディレクター大賞 奨励賞」を受賞いたしました。また、2010年4月に放送した「高橋大輔 金メダルへの軌跡～知られざる4年間の道～」がABU賞2010 TVスポーツ部門ファイナリストに選ばれました。さらに、第44回ヒューストン国際映画祭 ライフスタイル・プロモーション部門で「父の国 母の国ーある残留孤児の66年ー」が最優秀賞（プラチナ賞）を獲得いたしました。

(3) 東京編成制作部門（東京コンテンツセンター）の取り組み

1) 編成部

レギュラー番組では、火曜22時ドラマ枠で放送した10月「ギルティ 悪魔と契約した女」、1月「美しい隣人」とも多くの視聴者から支持を得て高い視聴率を獲得し、また、7月から始まった見逃し動画配信を引き続き両ドラマとも実施しました。「グータン」は12月と3月に90分拡大バージョンで放送、新たなコーナー企画に取り組みました。

単発番組では正月三が日に、これまで2度シリーズで放送され好評を得ているパチスタシリーズの最新作「チーム・パチスタSP2011～さらばジェネラル！天才救命医は愛する人を救えるか～」と、新たなバラエティ企画として「頑張る姿は美しい！ヘタリストミュージアム」を放送。また、1月・2月の日曜日16時枠でも新企画として「日

本人が知りたい数字の謎！ヒミツの数字くん!!」 「ドラマSP 黄昏流星群～C-46星雲～」を放送。将来のレギュラー番組や単発番組を育てていく取り組みを続けています。

2) 制作部

火曜22時の全国ネット・ドラマ枠を引き続き担当。4月からは「チーム・バチスタ2～ジェネラル・ルージュの凱旋」、7月からは「逃亡弁護士」、そして上記にもありますように10月「ギルティ～悪魔と契約した女～」、1月「美しい隣人」の制作を行いました。

これらのドラマ制作においては、自社制作だけでなく、制作会社に委託する場合も当社の社員が積極的に制作に参画し、企画から放送までイニシアティブを取りながら、番組内容についてのクオリティ維持に努めてきました。

フジテレビとの共同制作枠の日曜22時「Mr.サンデー」は宮根誠司・滝川クリステルの司会で丸1年を迎え、好評を得てきています。当社ではプロデューサー1名とディレクター1名が参画しています。

他のレギュラー番組「グータンヌーボ」「SMAP×SMAP」「さんまのまんま」なども好調に推移する中、2010年度は、ネット単発や正月特番などバラエティ番組を数々制作し、新たなバラエティ番組を企画開発するとともに、次世代を担うプロデューサー、ディレクターの人材育成にも努めています。

このように制作部では、視聴率だけでなく内容面でも、視聴者の皆様から良質の番組を制作しているとの評価もいただいておりますが、今後も、視聴者の方々に喜んでいただける番組作りを目指していきます。

3) コンテンツ業務推進部の設置について

2010年6月に新設されましたコンテンツ業務推進部は、東京コンテンツセンターの各部署と本社の著作権業務部、コンプライアンス推進部（法務担当）の橋渡し、センター内のコンプライアンス態勢の推進などを担当しています。

コンテンツ業務推進部では、番組及びコンテンツ関係の契約締結の補助と合わせて権利関係の意識高揚に努める他、下請法、個人情報保護法の遵守を始めとするコンプライアンス態勢作りを行いました。

(4) 報道部門の取り組み

1) 震災報道について

2011年3月11日に発生しました東日本大震災に際し、当社の報道部門は、フジニュースネットワークの一員として被災した地域の局を出来得る限り支援し、系列とし

て必要な報道を全国に発信することを主眼としました。加えて阪神大震災を経験した地域の放送局として、ローカル番組でも独自の特集を組むなど東日本大震災に関する報道を続けています。

系列局の応援に関しましては、カメラ取材に加え、ヘリコプター・中継車・可搬型の中継機材を投入し、記者、カメラマン、技術担当者など3月末までで現地に延べ50人のスタッフが入りました。また、被災した地域のテレビ局や、一時物資が極端に不足した東京の局に対して取材活動に必要な物資の援助も行いました。

これらとは別に「スーパーニュースアンカー」のキャスターを含め、発生当初から取材チームを現地に派遣し、阪神大震災を経験した局として地域の視聴者に向けて関西の局ならではのニュースをお伝えし続けています。また、義捐金や支援物資、ボランティアの募集など被災地が求めている情報をL字放送画面を使って、関西エリアの視聴者に向けて提供しました。

また当社では、阪神大震災から16年にわたり被災地の復興の様子を取材し続けてきました。今年も1月17日には「この瞬間に祈る」、1月22日には防災関連番組の「阪神・淡路大震災から16年 なぜ大丈夫だと思うのですか?～逃げないあなたの心理」を制作、放送しました。また、ニュース番組でも毎年欠かすことなく阪神淡路大震災関連の話題を放送し続けてきました。阪神大震災の発生時に直接取材に携わったスタッフは年々少なくなっていますが、その後の継続的な取材、放送を通じて若いスタッフにも当時の様子や被災された方々のお気持ち、取材者の思いなど、震災当時の様子が伝承できているものと考えています。

今回の東日本大震災は、阪神淡路大震災を経験した私たちにとっても想像をはるかに超える大きな規模のものになりました。今後もこの災害を教訓として、正確な報道がより迅速にできるようスタッフの意識やスキルを高めるとともに、設備の改善などを行っていきたいと思っています。

2) 「スーパーニュースアンカー」について

2010年度も、政権交代後初の本格的国勢選挙となった参議院議員選挙、大阪地検特捜部の検事の証拠偽造事件、第五管区海上保安本部の海上保安官による尖閣事故のビデオ流出事件など大きなニュースが多くありました。「スーパーニュースアンカー」は番組開始から5年を迎えましたが、どのような取材に際しても、取材対象や視聴者の方々と真摯に向き合う姿勢を持って取材を続けて来たことが地域の視聴者から高く評価され、高い支持をいただくようになってきたと感じております。

3) ドキュメンタリー番組について

2010年度のドキュメンタリー番組は、4月「償い～JR脱線事故から5年～」8月「戦争と仏教～寺報が記した戦時の教え～」10月「望郷の島から～ハンセン病と

家族の絆」11月「22歳のプレイボール～伝説の夏を戦った者たち～」2月「三人の酒蔵～社長とナナさんウエキの冬～」の5本を放送しました。

また、2009年度の放送ながら、淀川の姿を描いた「ザ・ドキュメント 淀川2009-2010 ～知られざる生命の営み～」の撮影スタッフが日本映像テレビ技術協会から「2010年度映像技術奨励賞」を受賞するとともに、「ザ・ドキュメント 父の国母の国ーある残留孤児の66年ー」がアメリカのヒューストン国際映画祭で最優秀賞を受賞しています。

4) その他の活動について

今日でも痛ましい事件として取り上げられることが多い「児童虐待問題」ですが、当社ではこの問題を国内ではいち早く取り上げ、番組として放送していました。

また、それと同時に「児童虐待防止協会」の設立にもご協力し、その後も、取材活動を通じて児童虐待を取り上げるとともに、毎日夕方のニュースの時間帯に「児童虐待ホットライン」の告知を欠かすことなく続けています。こうしたことから、「児童虐待防止協会」の設立20年の記念式典で感謝状を頂戴しました。

5) 完全デジタル化に向けて

2011年7月の完全デジタル化に向けて、報道部門でも準備を進めています。災害報道にも欠かせないヘリコプターを10年ぶりに更新しました。搭載カメラをHD化するとともに、安全運航のための様々な機材も最新化しております。また、昼のニュースでの字幕放送を開始しました。画面と文字との時差を極力小さくするため、当社独自のシステムを開発しました。

(5) スポーツ部門の取り組み

スポーツ局では2010年度も、より良質で視聴者の方々に楽しんでもらえる番組の制作・放送に努めました。スポーツの持つ感動、感激をよりリアルに伝えることで、スポーツ文化、またテレビ放送文化の発展にも貢献できるように努力しました。

またその一方で、スポーツの持つ華やかな面だけではなく、これからの課題とも言うべき負の側面も浮き彫りにし問題提起した番組の制作や、関西に縁のあるスポーツ選手にスポットを当て、地元のスポーツ文化の発展なども特に意識をしました。

1) 野球関連

2010年度は、阪神タイガースとオリックス・バファローズのホームゲーム、アウェイの試合をオープン戦3本、公式戦21本の合計24本を放送し、阪神ー巨人戦を初

めて3本を放送しました。また野球ファンの開拓など、より多くの視聴者の方々に野球中継に興味をもってもらおうと、開幕前やシーズン終了時には、解説者らの順位予想やその結果などの番組を制作し、面白く紹介しました。

また8月1日には「レジェンド～清原和博×野茂英雄 甦る平成の名勝負～」を放送。引退後初めて出会う2人が今だから話せる本音の対談などを紹介しました。思い出に残る名シーンなども盛り込み、野球ファンにとっては永久保存版と言ってもいい番組に仕上がりました。

さらにシーズンオフには、城島、下柳両選手の出身地である長崎を舞台にしたタイガースの番組や関西の各スポーツ団体の選手たちやお笑い芸人たちの駅伝競争を放送しました。

また1月15日には20回を数えることとなった「ボク達同級生！プロ野40年会vs48年会20周年SP」を制作。引退して新しい道を歩く元プロ野球選手や現役選手たちの普段は見られない姿を紹介することで、親しみを感じてもらえたと思います。

2) 競馬関連

2010年も桜花賞、天皇賞、宝塚記念、菊花賞などのG-1の中継を中心に「競馬beat」と「サタうま！」で競馬の固定ファンへのさらなる話題提供と、新規ファン発掘に努めました。

また、亡くなった名馬・オグリキャップ追悼番組を8月1日の深夜に「芦毛の怪物 オグリキャップ」と題して制作、放送しました。

さらに10月3日深夜に競馬の世界最高峰のレースのひとつとして有名なフランスのロンシャン競馬場での第89回凱旋門賞を「競馬beatスペシャル」として放送する他、2011年3月26日深夜には、日本馬のビクトワールピサが優勝、トランセンDが2位に入るという快挙を成し遂げたドバイワールドカップを中継、放送しました。

3) 単発番組

2010年2月のバンクーバー冬季五輪で日本フィギュア界の選手が大活躍したことを受け、4月3日には「高橋大輔 銅メダルへの軌跡」を再放送、また4月5日には各選手のエキシビジョンマッチを収録して放送しました。フィギュアファンに充分に楽しんでてもらえたものと思います。またエキシビジョンマッチは視聴者からの要望も多くあり、5月1日の深夜に完全版として再放送しました。

5月の「ダイヤモンドカップゴルフ2010」では、久し振りの青木功、尾崎将司、中島常幸のベテラン勢の揃い踏みと、2009年の賞金王・石川遼と浅地洋佑、藪田峻輔といった10代、20代の若手の活躍も余すところなく映し出し、ゴルフの新しい時代到来の印象を伝えるとともに、ファンの一層の興味を惹きました。

9月11日には、関西に馴染みや縁のあるスポーツ選手を取り上げて、その技術力の

高さや個性を紹介する「感謝×感激×雨上がり！関西最強アスリートウラもオモテも大紹介」を放送し、これまであまり知られていなかった関西に縁のあるアスリート達を紹介することができました。

12月12日には全国ネットで「スポーツクライシス」を放送しました。欧州で行われているサッカー選手の発掘競争とそれに翻弄される少年たちの実態や中国での体操選手のエリート育成システムに、長い間親元を離れて練習に励みながらも涙を流している幼い少女の現状、そしてドーピングでの薬物サイボーグ化の問題などを取り上げ、華やかな側面だけではないスポーツの暗部を掘り下げた問題提起が番組を通じてできました。

2011年1月の「大阪国際女子マラソン」は30回目を迎え、コースも大阪の道頓堀が折り返しとなるなど、全国に大阪の町の姿を改めて発信する機会となりました。当日は風が強く、厳しいレースとなりましたが、期待の日本人選手が優勝するなど、生中継を通じて、大阪から多くの人々に感動を与えることができました。

以上のように2010年度もより良質に、また特に関西の地元の視聴者の方々に喜んでいただけるようなスポーツ番組の制作に努めてきました。また、引き続き番組の制作チェック体制もさらに一層の徹底を図り、細かいデータのチェックなどもより確実に行ってきました。

またスポーツ局内での迅速な情報伝達やスタッフ相互間の情報交換もより細かく出来るように努めており、2011年度も番組を通じてスポーツ文化、スポーツ放送文化の発展により貢献できるように努力していきます。

(6) メディア戦略部門の取り組み

2010年度はまず、メディア事業部の柱である携帯サービス事業「ケータイ DE カンテーレ」での「サタうま！」関連の新規会員サービスや、ドラマをご覧になって会員になられた方も多く、2010年12月末時点で3万人を超える規模となりました。また、2009年度から準備を整えていました携帯端末画面の「着せかえサービス」も、3キャリア（NTTドコモ、au、SoftBank）全てで対応可能となりました。

動画配信事業では、7月から火曜日22時に全国ネットで放送されたドラマ「逃亡弁護士」の有料見逃し配信を在阪局として初めて実施しました。さらにこの作品は、ATP（全日本テレビ番組製作社連盟）所属の制作プロダクション作品で初めての有料見逃し配信作品となりました。

また、同時期に過去の火曜日ドラマ2作品の有料アーカイブ動画配信を実施しました。10月からのドラマ「ギルティ」は、提携先のフジテレビオンデマンドでのオンエア期

間内本店売上でトップになるなど前年比約4倍の規模となりました。

ローカル番組では深夜番組「ヘブンズ・ロック」を最短で放送終了後すぐに動画配信したほか「新・ミナミの帝王」、「こども新聞社！」などの単発番組も配信にラインナップされ、コンテンツ数も徐々に増えています。

そして、地上波デジタルテレビの普及が進む中、データ放送事業は、別項でも紹介しましたゴールデンウィーク中の特別番組と連動する「冒険キッズパーク」企画に参画し、番組連動データによる展開を実施したほか、火曜ドラマ枠ではデータ放送を経由した視聴者クイズなどより楽しめるコンテンツを提供しています。

一方、今期もメディアアートのクリエイターを発掘する「BACA-JA」を開催し、全国の学校から合計159作品の応募を受け、その中から“映像部門”では最優秀作品、優秀作品を“ネットワーク部門”からは優秀作品を選出しました。

これらの作品はweb上で発表し、11月に上映会を行いました。また、webでメディアアート情報を発信する番組「KTV NEW MEDIA LAB」では、「アルスエレクトロニカ」（以下ARS）のディレクターが来日した際のインタビューや、同社の賞を獲得した日本人アーティストの紹介などを行っています。

また、「BACA-JA」やメディアアートをより理解していただくため、9月にオーストリアで行われたARSフェスティバルの様や、日本でのアートイベントを取材し、番組を制作しています。この番組は「BACA-JA」の受賞作品紹介と共に、12月12日に放送しました。

さらに新たな試みとして12月より、本社玄関横に「デジタルサイネージ」の実証実験を兼ねたプロジェクター方式のサイネージを展開し、社員はもとより来社された方や、本社前を通り掛られる方々にも当社の発信するコンテンツをご覧いただけるようになりました。

それらの事業と並行して当社では、メディアアートを根付かせるために当社スタジオなどで企業向けのプレゼンテーションを行いました。これらを通じてアーティストの自立を助け、よりメディアアートが振興するよう目指します。

このような状況の中メディア戦略局では、2010年度においても、これまで記載しましたようなインターネット事業等の実施に関する社内規程等の遵守をはかるとともに、様々な権利関係を適切に処理し、契約書などの作成も関連各部署との緊密な協議を重ねて遺漏のないチェックを行っています。

またweb、携帯を通じて取得する個人情報の管理については、各担当者が適切に管理できるようなシステムを導入しており、アクセスされる方々の安全を第一に考え業務を行っており、今後も引続きこのような態勢で、真摯にメディアの可能性を拓けていきたいと考えています。

(7) ライツ関連部門の取り組み

ライツ部門では、地上波放送と関連する様々な他媒体との相乗効果等をめざして、視聴者の皆様により充実したコンテンツを多様な方法でお届けしており、2010年度におきましても、以下のような事業を行ってきました。

まず映画事業ですが、系列局出資として、「のだめカンタービレ 最終楽章（前編・後編）」の後編が4月に公開されました。その他にも「矢島美容室 THE MOVIE ～夢をつかまえネバダ～」 「座頭市 THE LAST」 「THE LAST MESSAGE 海猿」 「SP THE MOTION PICTURE 野望編」 「同・革命編」 「僕と妻の1778の物語」 「洋菓子店コアンドル」 など合わせて9本を公開しました。

特に「僕と妻の1778の物語」は、草薙剛さん主演の当社テレビドラマ「僕シリーズ」初の映画化で、がんと闘う妻のために毎日1話の小説を書き続けたSF作家・眉村卓さんの実話をもとに夫婦愛を描く作品で、高い評価をいただきました。

ライツ関連事業では、2010年度はドラマやバラエティ、スポーツ関連などを中心としたDVD44点をリリースしました。

その中でも「おかえりなさい はやぶさ」は、7年間・60億kmのミッションを完遂し、宇宙の謎が詰まった採取サンプル分析のニュースが各方面で報じられた小惑星探査機「はやぶさ」の物語のDVD化で、未公開の「はやぶさ」大気圏突入映像、JAXA（宇宙航空研究開発機構）協力による貴重な資料映像、プロジェクトリーダー・川口淳一郎教授はじめ関係者たちの証言、JAXA公式HPを手がけた池下章裕氏のオリジナルCGなど豊富な内容で、日本中を感動させた「はやぶさ」の全てに迫ったものです。

これらの内容と話題性から多くの皆様にご購入いただき、CS放送局や地上波系列局でも放送されたほか、香港の映像見本市にも出品しました。

また出版物としては、地域の皆様に役立つ情報をお届けする目的で、平日午前には放送されている人気番組「よ～いドン！」に関する書籍を3冊出版しました。ひとつは「となりの人間国宝さん 味街探訪～円広志・月亭八光がゆく～」で、視聴者の皆様にも本を片手に町を探訪していただき「となりの人間国宝さん」の世界を追体験していただけるよう、町ごとに詳しい地図も掲載しています。

もう1冊は「産地の奥さんごちそう様！こんな食べ方、あんな食べ方」で、月曜日のレギュラー企画を書籍化したもので、これまで取材しました全国の「産地の奥さん」ご自慢の、旬の素材を使った合計365点を写真とともに、一部レシピも加えて採録し、産地ならではのアイデアを凝縮、キッチンに常備して一年中使える便利な料理本となっています。

そして「プロが教えるとおきオススメ300厳選グルメ集」で、「本日のオススメ3」のエッセンスを凝縮したガイドブックで、各界の「その道の達人」が自信をもって推薦する街の味を集めておしゃれな装丁の中に必要な情報を網羅、ポケットサイズで

持ち歩ける一冊になっています。

これらに加え「マエノリ美★BODY」(DVDブック)やドラマ「美しい隣人」のノベライズ(文庫)版も出版しました。

そして2010年夏、深夜のレギュラー番組「イケメンデルの法則」から生まれたユニット「ココア男。」主演のドラマ「ヘヴンズ・ロック」を制作し、若者層を中心に人気を呼んだ「ココア男。」関連商品も幅広く開発し、視聴者の皆様に提供しました。

ところで、海外への番組販売ですが、当社ではアジア各国へのドラマ販売を中心にスポーツ中継に至るまで展開しており、2010年度は、11作品を6つの国と地域の放送局へ販売しました。

中でも最先端のファッショントレンドを取り入れた「リアル・クローズ」、都会の男女のおしゃれな恋物語を描いた「まっすぐな男」などが好まれました。

これまで紹介しました事業に加え2010年度は、2つの大型番組連動イベントを開催しました。

ゴールデンウィークには、「冒険チュートリアル」放送1周年を記念したイベント「冒険キッズパーク」を実施し、特番観覧、番組関連展示物の見学、食事や買い物をお楽しみいただけるブースの展開など、日ごろ番組を応援していただいている視聴者の皆様への感謝の意を込め、また特に子供たちに向けての催しとなり、来場者数は3日間で1万人を超える盛況となりました。

さらに6月には「よ〜いドン!」が放送開始2周年を迎えるのを機に、阪急百貨店にて「よ〜いドン!食覧会」を実施、タイトルの通り「食」を中心に「よ〜いドン!」でこれまで放送した関西の町々の「味」を、「本日のオススメ3」コーナーや「となりの人間国宝さん」コーナーなど、番組コーナーの特性も絡めながら出店する形で皆様に届けました。

おかげさまで約10万人という百貨店の催事としては異例の、多数のお客様が来場され、皆様には国内各地のおいしい食品の買い物を通じ“五感”で「よ〜いドン!」の世界をお楽しみいただきました。

ここまで記載しましたように、当社では映画出資・ライセンス開発各分野においても、著作権その他権利関係を適切に処理し、契約書等文書作成に際しては、担当者が編成制作業務部・コンプライアンス推進部ならびに社内弁護士と緊密な協議を重ね遺漏のないチェックを行っています。そして映画事業では社内合意について、より厳正な規程に基づき業務に取り組んでいます。

(8) 技術部門の取り組み

2010年度におきましても、関西エリアの視聴者の皆様により良い放送を届けるた

めに、デジタル化への対応をはじめとする以下のような取り組みを行っています。

1) デジタル化への取り組みについて

2010年度もデジタル放送エリア拡大のため、46局の中継局（ミニサテ含む）を建設しました。兵庫県22局、京都府3局、大阪府4局、滋賀県7局、奈良県2局、和歌山県8局の合計46局です。これにより当期までに建設しました中継局は合計144局となります。

2) 放送の安全・信頼性への取り組みについて

・放送運行の安定化、放送事故防止対策について

放送の運行安定のために、常日頃より①運行データの事前チェック、②システム改修の検証、③緊急編成に対応するための訓練を行っております。特に③においては、急なカットインや報道特番など特殊な放送運行にスムーズに対応できるように日々訓練を重ねています。

東日本大震災においては、通常の番組編成を状況に応じて変更した結果、阪神淡路大震災以来の長期間に渡るイレギュラーな放送運行となりましたが、滞りなく放送を継続することができました。

放送の送出部門と運行データ作成部門との組織的な縦割りを止めて定期的な人員交流を行い、各部門内においても定期的にシフト変更でチームや個人の業務が特定の番組編成に偏るのを避けて、お互いの業務の理解を深めることによってより放送運行の安定に寄与しています。

・CM運行の安定化、信頼性確保について

テレビコマーシャルは、視聴者の方々が商品を購入し、サービスを楽しむにあたり、大変重要な機会を提供させていただいていると考えています。CM運行において、コマーシャルメッセージを正確に視聴者の方々に伝えるため、CMの放送事故防止に努めることがCM部の責務と認識しています。当社では、いち早く広告会社との取引について、電子伝送を採用しており、3重チェック等で放送事故防止推進に取り組んでいます。また、放送システムの更新により操作性も向上され、緊急のCM素材変更や自然災害、事件、事故で急遽編成される報道特番にもスムーズに対応しています。

CM審査については審査部と連携し、視聴者の方々が不利益を被らないように、適正な表現がなされているか、公序良俗に反していないかなど、テレビの常識が一般常識から外れないよう十分注意して作業を行っています。また、CM審査を迅速且つ確実に進めるため、審査情報の電子化等、関係部署で情報共有できる環境に配慮したシステムを開発しました。さまざまな業界で経営環境等が厳しい状況ですが、広告媒体としてのテレビの価値を下げるようなCM審査の緩みを避けることも、CM部の大切な責務と考えています。

・送信所での安全及び災害対策について

生駒送信所には6600Vの高圧電源があり、月に1度の目視点検を行っています。送信所内での事故防止のために全部員は関西電気安全協会の安全衛生教育を受けています。また、送信所には高圧作業用のゴム手袋やヘルメット、検電気を常備し安全対策に取り組んでいます。

東日本大震災は、関東地方や東北地方の局において放送用アンテナの倒壊、停電による中継局停波など放送にも影響を与えました。近畿では、中継局のバッテリーや発電機などの予備電源の充実、予備アンテナの構築など大災害時の放送を確保するための予備システムの構築に取り組んでいます。

3) 制作技術の取り組みについて

制作技術局では、社内だけではなく社外に出て番組制作を行う事が頻繁にあります。その際一般の人や社外団体、またその施設と接する機会が多々あります。これらの作業や活動において、制作技術局ではコンプライアンス遵守と作業の安全重視を日常的な重点項目としてスタッフに徹底しています。

同時に高品質な番組制作のため技術力向上をめざしながら、新しいテレビ技術の研究・開発にも日頃より取り組んでいます。

・技術開発・技術力向上への取り組み

当社では、各種テレビ技術セミナーにできるだけ参加し技術力の向上に努めていますが、独自の取り組みとして照明メーカーと共同で2009年より「LEDを使ったスタジオ照明器具」の開発を行い、2010年度中に製品化されましたが、震災の影響もあり、2011年4月に完成品が当社スタジオに導入されました。

この器具の導入で、照明電力や空調電力の大幅削減が可能になり、非常に有効なエコ・省エネが今後はかれることとなります。

また、2010年11月の「民放技術報告会」では、報道技術部が「リアルタイム字幕システム」を披露しました。このシステムは、ニュース原稿から字幕を自動的に生成し、ワンタッチで放送に乗せるもので、アナウンスコメントとの時間差が殆どなくなり、聴覚に障害のある方もニュースの内容を的確に把握できます。そして、このシステムは、映像情報メディア学会の「放送番組技術賞」を受賞しました。

一方当社では、FNS系列全体の技術制作力向上のため、8月にKTV社員を鹿児島テレビに派遣。カメラ・スイッチャー業務の指導講習を行ったほか、制作技術部の「機材予約システム」が系列の技術関連の賞で部門賞をいただきました。

さらに系列技術応援については、3月11日発生 of 東日本大震災で、発生翌日衛星中継車班と可搬型衛星中継班それぞれ1班を現地へ派遣し、ヘリコプターを東京に派遣しました。以降系列あげての取材態勢の中で、報道支援活動を続けています。

・ドラマ等制作への取り組み

制作技術局では、当社制作のドラマ等にスタッフを投入し、技術力の向上を図っています。2010年度は、第2四半期の全国ネットドラマ「逃亡弁護士」に社員技術スタッフ（編集）を派遣し、全編にわたり編集作業に従事しました。

また、デジタルスチルカメラを使った撮影分野への研究、取り組みを始めており、11月放送のドラマ「その街の今は」で実際に撮影に使用しました。

さらにドラマだけでなく、映画製作にも携わり、映画「阪急電車」にカメラ・照明スタッフが、映画「HOT SNOW」にはカメラ・編集スタッフが参加しました。

・3D制作の取り組み

6月、当社内アリーナで開催されたスポーツイベントを3D収録すると同時に、社内にて同時試写を行い、3D撮影の効果や問題点を検証しました。そして2011年2月に複数台のカメラによる3D収録を行いました。

・放送設備のHD化と充実への取り組みについて

7月に天気予報画面のHD化が完成。視聴者の皆様に対して、従来より大きな画面でお天気の生活情報を視覚的にわかりやすく提供できるようになりました。また、9月に屋外中継電波の送受信システムがHD化され、基本的に中継番組はすべてHD制作が可能になりました。

10月には、社有ヘリコプターを新機種に更新し、HD化されたうえ飛行性能も格段に向上しました。そして11月には本社屋上のカメラなどがHD化されました。

4) 資格取得への取り組みについて

今期に制作技術局の2名が無線従事者の資格を取得。また、放送業務局新入社員1名も有資格者である他、今後も外部スタッフを含め資格の取得を奨励していきます。

(9) 営業部門の取り組み

2010年度のテレビ営業部門を取り巻く環境は、番組提供セールスが依然厳しいものの、スポットCMは前年を上回り、若干の回復傾向にありましたが、3月11日の大震災による日本経済の打撃は、計り知れない状況にあります。このような中で当社の営業部門では、地域社会に対して放送局の責務を果たすべく、2010年度に以下のような取り組みを行いました。

全国ネットの番組を通じては、事業局とともに運営に参加した5月開催の「ダイヤモンドカップゴルフ2010」において、ジュニアゴルファーの育成や、環境保護活動などの支援金をゴルフ関係団体に寄贈しました。

また、1月に開催されました大阪国際女子マラソンでは、第30回記念大会の取り組みとして、「チャレンジちびっこマラソン」をスポーツ局とともに企画しました。金メダリストの高橋尚子さんをゲストに迎え「走ることの楽しさ」を親子で体感してもらい、協賛スポンサーをはじめ、一般ランナーの方々に好評を博しました。

一方、関西ローカルの番組を通じては、8月7、8の両日に長時間生放送番組と連動させた無料イベント「8・8祭り」を本社1階のアトリウムで開催し、多くの家族連れに楽しんでいただきました。

また関西では8年ぶりとなる、中村勘三郎さんの「大阪平成中村座」が大阪城・西の丸庭園の特設会場にて10月～11月の2ヵ月間開催されましたが、日本の伝統芸能である歌舞伎を多くの皆さまに楽しんでいただくため、特別番組の提供とイベント協賛のスポンサーを募り、提供していただきました。

さらに3月にはメディア事業部と連携して、スマートフォン用の料理アプリを開発、無料で配信しています。これは番組で取り上げた料理レシピを、より手軽に見られるように工夫したもので、利用者からは大変使いやすいとの声が多数寄せられています。

その他にも営業部門では、毎年恒例の視聴者招待イベントを開催しました。7月の「さわやかトーク」では、タレントの向井亜紀さんに、ご自身の闘病体験から得た生き方のヒントについて講演していただきました。

8月の「親子サイエンスフェア」は、科学の不思議を解りやすく体験しながら、親子で楽しく学べるイベントとなりました。また2011年3月19～21日に万博公園で開催された「チャリティーキッズ」を後援しました。このイベントは、もとは「キッズフェスタ」という企画で、自然にやさしく、健康的な暮らし方を提案する「ロハス」をテーマに、子供のための体験教室やフリーマーケットなど、地域社会に根差した意義深いイベントが予定されていましたが、東日本大震災発生に伴い、急きょ内容を変更して、義援金の募金活動や救援物資を集める活動を行いました。

今後とも営業部門では、災害時に正確で迅速な情報を視聴者の皆さまに提供するため、放送設備や取材活動、番組制作に関わる費用の確保につとめることや、各種イベントを通じて地域社会に貢献できるよう取り組んで参ります。

(10) イベント開催部門の取り組み

2010年度の事業局は 演劇・ミュージカル・コンサートと多くのイベント開催で地元関西を中心とした皆様にお楽しみと感動をお届け致しました。

中でも10月から2ヵ月間に渡り大阪城西の丸庭園で繰り広げられた「大阪平成中村座」の歌舞伎開催は、内容・規模ともに特筆すべきものでした。大阪城の天守閣を背景にした芝居小屋は、中村勘三郎丈をはじめ関係者から「平成中村座一番の小屋」と絶賛

いただき、関西演劇史上に残る7万人を超えるお客様を迎えることができました。

そして、日本が誇る伝統芸能「歌舞伎」を当社の地元大阪から全国に発信することで大阪の文化力を示し、その意義、話題性の高さ、地域貢献などで高い評価を受け、興行において大成功を収めることができました。

また、6月で50回を迎えた「3000人の吹奏楽」や1月の「アマチュアトップコンサート」も地域文化への貢献を目標に長く愛され続けたメセナイベントであり、今後も大変重要であるものと考えております。

新たな催事では、テレビアニメの人気者「ワンピース」がドームでのイベントとして登場、アニメファンだけでなく老若男女が多数来場し、大阪からのツアースタートは大盛況となりました。今後は、全国規模に広がり、各地区に於いて期待が膨らむ催事になりそうです。

一方、3月に発生した未曾有の巨大災害「東日本大震災」では、FNS系列各局による「フジネットワーク募金」の被災地救援、緊急募金活動が即座に始まり、事業局ではイベント会場での募金呼びかけや募金箱を配布しましたが、予想をはるかに上回る義援金が集まりました。

これは当社が、阪神淡路大震災を経験し、準キー局としての使命と責任を果たしつつ信頼されるメディアであるゆえ、視聴者の皆様方の温かいお気持ちが寄せられたからこそ集まった募金と考えております。

また2011年度のFNSチャリティキャンペーンも急遽「東日本大震災 被災者支援」に決定し、被災された子供の教育支援に使われる予定となりました。当社でもこのキャンペーンなどを通じ、今後も継続的な支援活動に積極的に取り組んでいきます。

(11) 番組審議会の活動

放送法を典拠とする放送番組審議機関として、「関西テレビ放送番組審議会」の強化について委員会運営改善の具体策を、番組捏造問題の反省と教訓にたち、2007年に委員会提言として頂きました。当社番組審議会委員の任期は、毎年7月から翌年6月であり、2010年7月より第52期番組審議委員会を下記委員にご就任いただきました。

委員長 森下俊三（西日本電信電話株式会社相談役）

委員長代行 瀧藤尊照（四天王寺大学教授）

委員 飯塚浩彦（産経新聞社大阪本社編集局長）

井上章一（国際日本文化 研究センター教授）

上村洋行（司馬遼太郎記念館 館長）

大久保育子（消費生活専門相談員）

後藤正治（作家・神戸夙川学院大学学長）
小長谷有紀（国立民俗学博物館教授）
難波功士（関西学院大学社会学部教授）
平野鷹子（弁護士）

そして、今期の番組審議会においても、2007年の提言に依って、改善策「番組審議会のあり方」を踏まえ、2010年度を通じて、以下の改善点を引き続き実践していきます。

- ① 審議対象番組の選定・審議会（委員長、委員長代行）と審議会事務局が合同で行う
- ② 討議を活性化する
 - ・オブザーバー（制作担当者）をプロデューサー以外にも拡充する
 - ・オブザーバーと委員との質疑応答を随時に（従来は議事の最後）
 - ・担当責任役員も当事者性に基つき発言する
 - ・委員の自由発言（当月議題以外でも）を拡充する
- ③ 情報の積極的開示と共有
 - ・審議内容を社内外の従前以上に積極開示する
 - ・審議内容への対応諸施策を次回審議会で報告
 - ・視聴者の苦情・抗議、対応状況のより詳細な報告

<放送倫理会議への伝達>

2010年度においては、審議内容の社内各制作現場への周知について、「放送倫理会議」において、審議内容を速やかに伝達し、放送倫理会議においても情報と認識の共有化を実践しました。

審議会に出席している当社幹部から各々の局内への示達に加え、放送倫理会議でも周知することでより確実に現場への周知徹底が図られます。今後とも、番組審議会からの指摘や提言を、より実りある形で現場周知することに努力していきます。

また当社社員の委員には2009年に続き制作技術局長を加え、地上デジタル放送への完全移行を目前に、当社の課題への取り組みについて、より詳しく説明できる陣容となりました。

<2010年度の番組審議会審議実績>

第514回番組審議会（4月8日）

「高橋大輔銅メダルへの軌跡—知られざる4年間の「道」」（3月8日放送）

第515回番組審議会（5月13日）

連続ドラマ「チーム・バチスタの栄光2 ジェネラル・ルージュの凱旋」第1話
（4月6日放送）

- 第516回番組審議会（6月10日）
ザ・ドキュメント「償いーJR福知山線脱線事故から5年ー」（4月24日放送）
- 第517回番組審議会（7月8日）
「世間の裏側のぞき見バラエティ ウラマヨ！」（6月19日放送）
- 第518回番組審議会（9月9日）
ザ・ドキュメント「戦争と仏教～「時報」が記した戦時の教え」（8月13日放送）
- 第519回番組審議会（10月14日）
スペシャルドラマ「新・ミナミの帝王」（9月21日放送）
- 第520回番組審議会（11月11日）
ドキュメンタリー「望郷の島から～ハンセン病と家族の絆」（10月11日放送）
- 第521回番組審議会（12月9日）
文化庁芸術祭参加ドラマ「その街の今は」（11月21日放送）
- 第522回番組審議会（2011年2月10日）
連続ドラマ「美しい隣人」第一話、第二話（1月11日、18日放送）
- 第523回番組審議会（3月10日）
ドラマスペシャル「黄昏流星群～C-46星雲」（2月20日放送）

第4 視聴者の方々とのつながる取り組み

(1) オンブズ・カンテレ委員会の活動について

「オンブズ・カンテレ委員会」は、2009年7月に設置された外部の有識者からなる委員会で、第三者の視点から番組などを中心に、当社に対して、広く論評、注意喚起、提言を行う組織で、2007年6月に設置された「関西テレビ活性化委員会」から名称変更したものです。

委員会は、蔵本一也委員長（神戸大学大学院准教授）、鈴木秀美委員（大阪大学大学院教授）、難波功士委員（関西学院大学社会学部教授）で構成され、具体的には以下の活動を行っています。

①オンブズマン機能

視聴者情報部集約の意見、批判、苦情などを、吟味・検討し、調査を指示したり、当社に改善策を求めます。放送による人権侵害などの抗議、苦情に関しても、独立した立場で調査・検証し、当社に救済措置などの改善策を求めます。

また、放送倫理会議（前出）で扱われた内容を中心に専門家の立場から意見を述べたり、BPOなどで扱われた重要事案についても、放送の将来を見据えた委員会独自の視点で話し合います。

②内部的自由（制作者としての良心の確立）の保障について

当社の番組制作に携わる者が、放送番組基準に沿わない、良心に反する業務を命じられた場合など、事実関係を調査し、当社に対し注意喚起・改善などを求めます。

③特選賞について

独自の表彰制度を持つ意味は重要と考え、良質な番組や事業イベント等の制作を推奨する委員会として、他とは違った視点で表彰します。

2010年度上半期は4月に第4回、7月に第5回の委員会が開かれました。

1) 第4回 オンブズ・カンテレ委員会（2010年4月）

2010年4月の第4回委員会では、「オンブズ・カンテレ委員会特選賞」の受賞作品を決定し、表彰が行われました。

この「オンブズ・カンテレ委員会特選賞」は、委員が前年（2009年1月から12月）に放送された当社制作の作品（番組、および番組内企画）ならびに、イベントやその他の活動について、上述のように独自の視点で良質なものを表彰するもので、募集方法ならびに審査の経過は、以下の通りです。

1月 下旬 全役員・社員に特選賞について告知、作品等の応募受付開始

2月 月上旬 作品等応募を〆切 放送番組部門10作品、のべ15件

イベント・その他活動部門7活動、のべ8件

- 2月 中旬 上記10作品ならびに7活動を投票対象に役員・社員による第1次投票開始
- 2月 末 第1次投票の結果、放送番組部門上位5作品、イベント・その他活動部門の上位3活動が決定、第2次審査へ
- 3月 オンブズ・カンテレ委員会 全委員が、第2次審査を行う
- 4月 上旬 各委員の採点を集計

この結果、特選賞放送番組部門には、報道番組部が制作した「ザ・ドキュメント 父の国 母の国—ある残留孤児の66年—」(2009年4月29日放送)が選ばれました。

委員からは、「中国残留孤児問題、とりわけ帰国後の自立支援がきわめて不十分だ」という問題は、日本の戦後の国家のあり方を考えるうえで避けて通れないテーマである。この番組は、初田さんという中国残留孤児の生きざまを通じて、日本での裁判闘争だけでなく地道な支援活動の様子に、中国現地取材などを交えて、このテーマに意欲的に取り組み、視聴者に問題を投げかけることに成功していると思う」という感想や「戦争について、考えさせられる意義深い番組である。また、国家の無策を啓発する番組であり、国家補償という観点もあり、多方面から問題点をついている。テーマの設定が非常に意義深く、魅力的。取材対象と深い信頼関係を築いた点も高く評価したい」などの講評がありました。

また、イベント、その他活動部門には、アナウンス部と宣伝部が行いました「関西テレビアナウンサー朗読会」(2009年9月6日実施)が選ばれました。この活動について委員からは、「イベント自体は、当社のアナウンサーの皆さんと視聴者が、テレビを通してだけでなく、直接にふれあえる機会としてとても貴重な機会となっている。また、そのイベントを番組として放送することで、視聴者に開かれたテレビ局としての当社の姿勢をイベントに参加しなかった視聴者にも伝えられている。朗読会の企画もアナウンサー自身によるもので、朗読会がアナウンス技術の向上にも役立っている。視聴者に対して当社の存在を高めることに大きく寄与しているのではないか」などの講評がありました。

2) 第5回 オンブズ・カンテレ委員会 (2010年7月)

第5回の委員会では委員から、一部の情報系番組を中心に視聴者から内容の誤りを指摘する意見や苦情が度々寄せられていることに対して、「内容や表現についての精査や対応に緩みがある」と指摘、「同じミスを繰り返すのは、番組担当者の情報共有が徹底されていない」などの意見が出されました。そして「今後気を緩めることなく丁寧かつ慎重に番組作りにあたって欲しい」と要望がありました。

また、放送倫理会議について、より効果的なものにするために社員等への幅広いフィードバックを検討すべきなどの意見が出されました。

3) 第6回 オンブズ・カンテレ委員会 (2010年10月)

第6回の委員会では委員から、一部の取材について、マナーやインタビューの問かけ方について視聴者から意見や苦情が寄せられたことについて、「今一度、取材関連のマニュアル類を心に留めて、善意の方々に不快な思いを与えないようにすべき」といった意見が出されました。また、「取材に際して、法令その他の確認は、制作者側でもしっかりと取る必要がある」といった指摘もありました。

また、放送倫理会議においてCMの試みについて議論があった点について、「色々なアイデアを出すことは、企業にとって重要。しかし、新しいものを採用する際、様々な角度から十分協議してから行われるべき」といった意見が出されました。

4) 第7回 オンブズ・カンテレ委員会 (2011年1月)

第7回の委員会ではまず「特選賞」について、今回も継続して行うことを確認しました。2009年同様、番組等部門とイベント・その他活動部門の2つの部門でそれぞれ1作品並びに1活動を選ぶ。2月に社員投票による第1次審査を、3月に委員による第2次審査をそれぞれ行い、次回委員会にて表彰を行うことも確認しました。

続いて委員から、情報番組において個人情報流出問題があった会社に関連する企画を取り扱い視聴者から意見や苦情が寄せられたことについて、「タイミング等難しい部分もあるが、被害者感情を考慮して判断すべき」といった意見が出されました。

さらに放送倫理会議において、「Mr.サンデー」の特集企画における不適切表現問題について、委員から「フジテレビと当社が作成した報告書は、しっかりとした内容となっており、制作者は、じっくりとこれを読み、心に留めながら番組作りしてほしい」や、「ケーススタディーとして取り上げて、教育を繰り返してほしい」などといった希望が出されました。

このように「オンブズ・カンテレ委員会」の委員の皆様には、様々な知識・経験に基づく、第三者の視点から当社の番組制作、放送を中心とした事業活動に忌憚りの無いご意見をいただく場として活動していただいています。それは、当社にとって非常に不可欠かつ有意義なことであり、今後も当社の番組等につきました的確なご意見やご指導をいただけるよう望んでいます。

(2) 視聴者の皆様からのお問合せ等への対応と「月刊カンテレ批評」等

1) 視聴者の方々からのご意見について

2010年4月から2011年3月までの視聴者対応件数(電話・メール・郵便)につ

いては、以下の通りです。

4月	総件数6778件	(問合せ4392件 感想327件 情報提供176件 苦情898件 要望812件 其他173件)
5月	総件数5759件	(問合せ3686件 感想376件 情報提供165件 苦情733件 要望612件 其他187件)
6月	総件数6018件	(問合せ3875件 感想318件 情報提供157件 苦情830件 要望681件 其他157件)
7月	総件数6647件	(問合せ4227件 感想376件 情報提供151件 苦情970件 要望694件 其他229件)
8月	総件数5493件	(問合せ3414件 感想313件 情報提供179件 苦情791件 要望550件 其他246件)
9月	総件数6082件	(問合せ3724件 感想402件 情報提供152件 苦情934件 要望648件 其他222件)
10月	総件数6190件	(問合せ4060件 感想342件 情報提供207件 苦情815件 要望606件 其他160件)
11月	総件数5196件	(問合せ3004件 感想465件 情報提供143件 苦情759件 要望626件 其他199件)
12月	総件数4946件	(問合せ3010件 感想331件 情報提供145件 苦情729件 要望511件 其他220件)

2011年

1月	総件数5134件	(問合せ3332件 感想275件 情報提供157件 苦情624件 要望524件 其他222件)
2月	総件数5213件	(問合せ3116件 感想372件 情報提供165件 苦情717件 要望571件 其他272件)
3月	総件数10047件	(問合せ4776件 感想552件 情報提供256件 苦情2201件 要望1990件 其他272件)

これらの視聴者情報部で受け付けました視聴者の方々からの問い合わせ、要望、感想、苦情、情報提供等のうち、特定の番組専属「視聴者対応スタッフ」が担当しました対応件数については、以下の通りです。

「よ〜いドン!」295件

「スーパーニュース アンカー」671件

「FNNスーパーニュース アンカー」224件

また、各月のお問い合わせ等の主な内容は、次の通りです。

【4月】

韓国ドラマ「華麗なる遺産」の放送が始まり、放送日時などの問合せが200件以上ありました。5日(月)に行われたアイスショーのイベント「浅田真央&高橋大輔 凱

旋SP!KTVダイヤモンド・アイス2010」の放送で、再放送希望と、放送時間が1時間だった為、ノーカット版の放送希望が、合計74件ありました。

27日(火)「プロ野球中継 中日×巨人」の放送があり、「東京ヤクルト×阪神」が荒天により中止となった為、「今日の放送はありますか？」などの問合せが118件ありました。また30日(金)「プロ野球中継 阪神×巨人」には102件以上もの電話やメールがありました。中でも、延長がないことに対するご意見が59件ありました。その他、「CMや、番組が始まってすぐに『ここまでのハイライト』が入るタイミングが悪い」などのご意見が23件ありました。

【5月】

12日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!”に101件の電話やメールがありました。そのうち、「口蹄疫の問題を取り上げてくださってありがとうございました」「感動しました」などのご意見が約半数でした。

26日(水)「よ〜いドン!」「となりの人間国宝さん 京都・烏丸御池」の本日のお土産のうな丼をスタジオで頂く際、「食べ方が下品、卑しい」「食べてばかりだ」などのご意見が17件ありました。多かった問合せは、7日(金)「よ〜いドン!」「となりの人間国宝さん 京都・神宮丸太町」で訪れたタルト・タタンのお店が160件と、25日(火)「とくダネ!」「自分で治せる最新「腰痛」治療」で紹介された病院が105件ありました。

【6月】

6月2日(水)「FNN報道特別番組 鳩山首相が辞意」の放送で「よ〜いドン!」の放送時間が変更となり、問合せが29件ありました。また、6月4日(金)「FNN報道特別番組 首相指名選挙で菅氏を選出」の放送に伴い「真珠夫人(再)」などの放送問合せが168件ありました。

5日(土)「にじいろジーン」“地球まるごと見聞録〜今日からアナタも世界ツウ!〜”に関しての抗議が放送前から寄せられ、合計31件ありました。

9日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!菅新体制スタート その「本性」とは?”に82件のご意見がありました。「批判ばかりするな」「偏っている」などの意見が一番多く40件ありました。

25日(金)「踊る大捜査線(再)」初回放送の第1話が拡大版だったため、2日に分けて放送し、重複部分をご覧になった方から「昨日と同じ内容を放送してますが?」などの問合せが49件ありました。

多かった問合せは、11日(金)「よ〜いドン!」「発見!関西ワーカー(金)」で紹介された仏具クリーニング師に93件ありました。

【7月】

5日からアナログ放送の全ての番組で、上下に黒味がついたレターボックスと呼ばれる16対9の横長画面での放送が始まりました。「何で画面が小さくなってるの?」な

どの問合せや苦情が合わせて62件ありました。

「真珠夫人(再)」が、6月25(金)を最後に7月7日(水)から毎週水曜の深夜に放送枠が移動した為、放送時間の問合せや苦情が136件ありました。

13日(火)に行われた「プロ野球中継 阪神×巨人」の放送有無の問合せが268件、解説・実況に関する苦情と放送の延長がない事に関する苦情が47件、合計329件ありました。

24日(土)～25日(日)「FNSの日26時間テレビ2010超笑顔パレード 絆～爆笑!お台場合宿!!～」の放送があり、タイムスケジュールの問合せが37件、「24時間駅伝」に対してや企画についてのご意見が30件、合計で137件の電話やメールがありました。

多かった問合せは、「よ～いドン!」「となりの人間国宝さん 大阪・梅田」で訪れたイタリア料理屋やカフェなどで97件ありました。

【8月】

13日(金)「スーパーニュース アンカー」“あんたがアンカー”で、アナウンサーが「東方神起は解散しちゃった」と発言したことで、「活動は休止中です」とのメール、電話の苦情が71件ありました。

65年目の終戦記念日に向けて、13日(金)「ザ・ドキュメント」“戦争と仏教 寺報が記した戦時の教え”が放送されました。戦争を思い出された方、また戦争を知らない方からも、ご意見、再放送希望など9件寄せられました。

16日(月)「スーパーニュース アンカー」“ANCHOR's EYE 食物アレルギー「ちなりちゃんの挑戦」”に「大変参考になりました」など8件の感想が寄せられました。

28日(土)「たかじん胸いっぱい」“残暑を斬り裂くガンガントーク祭り～絶対に負けられない2時間スペシャル!!～”に24件のご意見があり、そのうち橋下知事の出演と一方的な発言に対するご意見が10件ありました。

多かった問合せは、「よ～いドン!」「プロが教えるとおき 本日のオススメ3 夏真っ盛りスペシャル 2010「ご飯の友」”で紹介した商品で95件ありました。

【9月】

1日(水)急遽「FNN報道特別番組」が編成され、「マルサ!!(再)」、「GTO(再)」が休止になり、問合せや苦情などが233件ありました。

5日(日)「38thフジサンケイクラシックゴルフ」最終日のトーナメント途中で中継が終了した為、苦情や試合結果の問合せが116件ありました。

14日(火)「逃亡弁護士」最終回に66件の電話やメールがありました。ほとんどが「素晴らしかった」「スペシャルや続編を放送してください」などの感想と要望で38件ありました。20日(月)から「よ～いドン!」のプレゼント応募方法が変わり、電話番号の問合せや発信者番号通知の方法の問合せが31件ありました。

20日(月)「HEY!HEY!HEY!」のスペシャル版が短縮放送だった為、苦情が34件あり、21日(火)放送「新・ミナミの帝王」に対して、シリーズ化希望や、主演が映画と違う事への苦情など、いろいろなご意見が45件ありました。

多かった問合せは、「よ〜いドン!」24日(金)発見!関西ワーカー“地コスメマイスター”のお店に110件と、3日(金)発見!関西ワーカー“美味しいフルーツを提供する フルーツコーディネート”の果物店に91件ありました。

【10月】

尖閣諸島問題に対するデモが各地で行われるなどの情報提供や、報道しなかった事に対するご意見、「もっとテレビで取り上げて欲しい」などの要望が33件ありました。

13日(水)「スーパーニュース アンカー」“未来はあるのか? ニッポン農業 緊急生激論!”に出演された方の連絡先、著書などの問合せやご意見が37件ありました。

【11月】

6日(土)「日本シリーズ第6戦 中日×千葉ロッテ」が190分延長の為、「F-1 ブラジルGP予選」が休止で99件の苦情があり、翌日7日(日)「日本シリーズ第7戦 中日×千葉ロッテ」は140分延長の為、「F-1 ブラジルGP決勝」が30分短縮した放送となり、2日間で野球中継の延長への苦情、休止になった番組への放送希望など200件以上となりました。

10月に続き、尖閣衝突ビデオ流出問題に対する意見がたくさん寄せられました。多かったのが10日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!”のコーナーに96件の電話やメールがあり、「共感しました」「良かったです」などの感想が約半数でした。翌週17日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!”の解説にも「わかりやすく良かったです」などの感想がありました。

【12月】

歌舞伎役者の方が暴行を受けた報道がいろいろな番組で取り上げられ、7日の夜には暴行事件から12日経ち、涙の記者会見が行われましたが「もう、このニュースは結構です。朝から晩までしつこ過ぎます」などのご意見が50件近く寄せられました。

18日(土)「円広志のとおき!歳末お買物情報」で電話番号の問合せや、「電話が繋がらない」などの苦情が40件近くありました。

20日(月)~24日(金)「よ〜いドン!」“プロが教えるとおき 本日のオススメ3 2010年下半期総集編”に1週間で190件以上の問合せがありました。

22日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!遺骨収容に新たな動き その後の「硫黄島」をズバリ!”に電話やメールが65件ありました。

26日(日)「アンカーSP 2010 青山繁晴×宮崎哲弥×森田実がズバリ!こんな日本に誰がした?」に電話やメールが52件ありました。

2011年

【1月】

1月から始まったアナログ停波周知の為のムービングロゴが、番組冒頭に表示されることに、「デジタル放送で見ているのに」といった苦情がありました。

30日(日)「第30回大阪国際女子マラソン」には、97件の電話やメールがあり、例年大阪城で流されていたTHE ALFEEの曲が流れなかったことや、マラソンの新コースの問合せなどが、29件ありました。

【2月】

5日(土)「雨上がり食楽部」に不倫問題が発覚した女優さんがゲスト出演したことで、苦情が29件ありました。

7日(月)「スーパーニュース アンカー」“走れ！コウケン”のウイスキーボンボン工場からの中継でリポーターが咳き込んだことに対する苦情が11件ありました。

8日(火)「FNNスーパーニュース アンカー」“特集 不公平？ 消費税増税を考える 自腹を切る業者も・・・”に「素晴らしかったです」などの感想が18件ありました。

14日(月)大雪が降る悪天候で、デジタルの受信障害が発生し、テレビが映らないなどの問合せ、苦情が24件ありました。また、「HEY!HEY!HEY!」「バレンタインSP」の短縮版の放送に対して苦情や要望などが42件ありました。

16日(水)「スーパーニュース アンカー」“報道されない「TPPの真実」を検証する”で、ジャーナリストの方の解説に41件の電話やメールがあり、そのうち30件が「分かりやすく説明して頂き、とても良かったです」などの感想でした。

【3月】

京大入試問題ネット投稿事件で、情報提供や、事件分析の感想、試験会場の大学側の監督に対する苦情、捕まった学生に対する同情の声などが、40件近くありました。

9日(水)「スーパーニュース アンカー」“青山のニュースDEズバリ!”の青山さんが体調不良でお休みの為、問合せが50件ありました。

11日(金)東日本大地震発生から13日(日)まで、終日「FNN報道特番」が放送され、3日間で、レギュラー番組の放送有無などの問合せが300件以上、「通常の放送にもどして！」などのご意見が70件以上ありました。14日(月)から徐々に通常編成に戻り始めましたが、東日本大震災関連では、「避難所を多く映して安否が確認できるようにしてほしい」「被災地には物資が足りないのでは？」など様々なご意見や要望がありました。

さらに、16日(水)からバラエティ番組が放送され「不謹慎だ」との意見もありました。そして通常のCMが自粛され、放送されたACのコマーシャルには「何で、こんなにACばかり流すのか?」、「ACって何?」などの問合せ66件、「同じACばかり流れて、不愉快だ」などの苦情452件あり、合計528件ありました。

15日(火)にはドラマ「美しい隣人」の最終回の放送中に静岡で発生した地震のニュースが入り、約15分後にドラマは再開されましたが、「最後まで放送しましたか?」「再放送してください」など、469件の問合せや要望がありました。さらに20日(日)

に放送予定だったアニメ「ワンピース」について、震災後ふさわしくない内容が含まれていたため、再放送に差し替えられましたが、「なぜ再放送なんですか?」「早く通常の放送に戻して」などのご意見や要望が154件ありました。

2) 「月刊カンテレ批評」について

毎月最終日曜日放送の「月刊カンテレ批評」は、冒頭にオンブズ・カンテレ委員会の報告など「関西テレビからのお知らせ」で情報公開を行っています。

また、いくつかの「視聴者の声」を取り上げ担当部署から回答する形を従来から行っています。

さらに、2010年度からは、番組の演出方法について是非を問う「メディア批評」コーナーを設けました。「メディア批評」では、コメンテーターの井上章一氏から「政治とテレビ」や「女性アナウンサーについて」など、毎回テーマを出していただき、批評をいただいております。

2011年1月の放送では、「アナログ停波まで175日」と題して現在の状況や課題について取り上げました。2月のテーマは「あるあるから4年…再発防止の取り組みは?」3月は東日本大震災の発生を受け、「災害報道におけるテレビの使命は?」がテーマでした。

番組の最後には、番組審議会の委員の方々のご意見を紹介しています。「月刊カンテレ批評」は、当社の番組やイベントなどを自ら批評することで、より良い番組作り、そして「視聴者と心でつながるテレビ局」を目指すための一助としての機能を保っています。

第5 メディアリテラシー等 全社的なCSR活動について

(1) メディアリテラシー推進活動の現状

1) 活動全般について

当社のメディアリテラシー推進活動は、2007年に本格的な取り組みを始め、2010年で4年目になりました。この活動の推進は、全社横断の組織“心でつながるプロジェクトチーム”で行っています。

プロジェクトチームの会議は毎月1回開催されており、メンバーが活動報告や企画提案、情報交換などを行い、活動のバックボーンとしています。具体化の調整役は2008年から設立されたメディアリテラシー推進部が担当しています。

それらの活動と並行して、メディアリテラシー番組「テレビのミカタ」（毎月1回、通常第3日曜日午前6時30分放送）の放送も引き続き行っており、メディアリテラシーの実践活動と効果的に連携させ、成果を上げるように工夫をしています。

また、当社ホームページには、心でつながるプロジェクトチームの活動が掲載されています。

2) 出前授業について

活動当初から行ってきた「出前授業」は、青少年へのメディアリテラシー教育の一環として行っているもので、次のような活動をしました。

まず、6月7日（月）に、寝屋川市内の中学校・3年生を対象に「テレビ局の仕事」について講義をするため講師を派遣しました。この日の講義は、キャリア教育の意味合いも強く、テレビ局全体についての仕事紹介となりました。

また、7月13日（火）には、堺市内の中学校2年生を対象に「アナウンサーの仕事」についての講義をするために、2名のアナウンサーを講師として派遣しました。

9月7日（火）には、富田林市内の中学校・2年生を対象に「報道の仕事」についての講義をするため講師を派遣しました。

9月10日（金）には、寝屋川市内の大学生を対象に「アナウンサー講座」を実施しました。

そして、9月14日（火）には、大阪市内の小学校・5年生を対象に「ニュース番組の制作体験」を行いました。簡易スタジオセットやカメラを持ち込み、アナウンサーやカメラマンなどを体験学習するという内容です。

1月20日（木）には、堺市内の高校2年生を対象に「キャリア講演」の講師を派遣しました。

また、1月27日（木）には、神戸市内の小学校5年生を対象に「ニュースの出来る

まで～伝えること」についての講義を行いました。

3) 制作支援活動について

2009年からスタートした新たな活動として、「中高生のための映像作品制作支援プログラム」があります。2009年に引き続き実施しているのは、近畿地区の中高生を対象にした軽音楽系クラブのコンテスト「We are Sneaker Ages」（ウイ・アー・スニーカーエイジズ）を舞台に、12月のグランプリ大会に向けて挑戦するクラブメンバーの姿を仲間が取材し、ドキュメンタリー作品を制作するという試みです。2010年は、京都光華高校と奈良県立橿原高校の2校が参加してくれました。この活動は、中高生の映像作品制作を支援する過程で、お互いのメディアリテラシーを学習するというものです。高校生自ら、企画・構成を考え、撮影・編集を行います。3月20日（日）には、両校合同の完成上映会を開催しました。両校のクラブ関係者や卒業生、父兄などが参加して完成作品の試写や活動内容の報告をしました。

また2010年は、大阪府立阿倍野高校のパソコン部が制作する映画づくりにも制作支援を行いました。映画製作の支援過程で、お互いに何を学ぶことができるのか、試行錯誤しながら実施しました。

その他にも、和歌山大学観光学部で制作する映像への支援なども行いました。

4) メディアリテラシーの共同研究等について

メディアリテラシーの共同研究も大学生を中心に進めています。2010年度で3年目を迎えた立命館大学産業社会学部との研究では、4月から新企画でスタートし、「テレビとは何か、原点としてのテレビを考える」という研究テーマを学生達に示し、研究を行いました。2010年度の研究成果は、映像作品として報告するということになり、後期授業では、映像制作についてもサポートしました。

また、関西大学社会学部との間で進められている「マスコミ制作実習」も4月から毎週、2コマの授業が行われ、長い制作現場キャリアを持つ社員が登壇し、授業を行いました。

さらに神戸大学工学部には、非常勤講師として放送業務局社員を派遣し、デジタル放送の技術的な基礎を含めて、デジタル放送とはどのようなものであるかを広く大学生に教えました。

5) メディアリテラシーのイベント

教育現場や社会からのニーズが高まりつつある「メディアリテラシー」への取り組みとして、「テレビ局に何が出来るのか」を模索する中で生まれた新しい企画、「オープンスクール@カンテ〜レ」を初開催しました。

11月7日（日）、当社のスタジオ「なんでもアリーナ」と「アトリウム」を会場に、

独自の「公開授業」やブース展開による体験型「テレビ局の仕事紹介」「中継車公開」などを行い、約1000人のご来場をいただきました。

公開授業では、大学教授や高校で実際にメディアリテラシー教育をされている教諭をお招きして、「メディアリテラシーとテレビ局 送り手・受けてにできること」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。

ブースでは、制作技術局から「3Dカメラなどの映像機器」を出して、会場に来られた多くの方々に3D映像を体験してもらったり、デジタル放送体験コーナーを設置し、デジタル受信機とアナログ受信機を並べてデジタル放送の特徴を紹介しました。高画質、EPG（電子番組表）、データ放送等の体験を通じて、アナログ放送終了を前にして、あらためてデジタル放送を来場者に認識してもらいました。

また、アトリウム内において「エリアワンセグ」を実施し、イベント会場の映像やデータ放送で、本放送とは異なるエリア限定のコンテンツとしてワンセグを楽しんでもらいました。

会場に来られた方からは「送り手のことが見えた」「テレビの見方が変わった」などの感想をいただき、このイベントに対する手応えも感じましたが、それ以上に、担当した当社の社員が学んだことに多くの意味がありました。

今後も、一般の方を含めて多くの方々に参加していただける取り組みとして、このイベントを継続したいと考えています。

6) メディアリテラシー番組「テレビのミカタ」

メディアリテラシー活動のもうひとつの柱となっている番組「テレビのミカタ」（通常毎月第3日曜日午前6時30分から放送）は、レギュラーのメディアリテラシー番組としては、他局に例を見ない番組です。

2007年10月に「別冊 カンテレ批評」のタイトルでスタートして以来、放送回数35回、テレビ放送の現場の姿を視聴者にお伝えしてきました。放送の仕組みやスタッフの動き、報道番組やニュース、バラエティやスポーツ番組などを取り上げ、テレビ番組がどのように作られているのかを 視聴者の目線に立って、カメラはスタジオの裏の裏まで潜入し、スタッフに密着して見せてきました。

また、2010年10月に「テレビの素」から現タイトルになってからは、新しいアプローチで「メディアリテラシー」の広がり可能性を追求しています。

2010年度に放送された内容を以下に記します。

「テレビの素」司会：ロザン 杉本なつみアナ

4月：若者のテレビ離れについて考える

5月：深夜バラエティについて

6月：ニュースの現場から ～報道支局

7月：テレビの見方と学校教育

- 8月：スポーツバラエティの魅力と課題
9月：バラエティ番組のロケに密着
「テレビのミカタ」司会：杉本なつみアナ
10月：高校生のドキュメンタリー制作の様様
11月：オープンスクール@カンテ〜レ パネルディスカッション
「メディアリテラシーとテレビ局 送り手・受けてにできること」
12月：オープンスクール@カンテ〜レ 公開授業「ニュース番組ができるまで」
1月：オープンスクール@カンテ〜レ 公開授業
「バラエティ番組の裏側教えます」
2月：神戸の小学校への出前授業の様様
3月：「ドキュメンタリーとメディアリテラシー」

(2) 環境対策等について

当社では環境対策について、2008年8月に策定した「環(カン) テレ宣言」に則り、環境負荷の少ない社会の実現に貢献する姿勢を明確にし、継続してさまざまな施策を実践しています。

省エネルギーに対する取り組みとしましては、別項目にて記しておりますが、大手電工メーカーと組み、省電力に優れた「LEDブロードライト」を共同開発し、番組制作スタジオとしては民放初となる大掛かりな照明システムを完成し、これを2011年度より実際に活用することにしていきます。

このシステムにより、午前の生放送番組1回につき約50kwhの電力消費が削減され、午後の番組と合わせて、1ヵ月で約2000kwhの削減となり、照明による従来の消費電力量に比べマイナス15%となります。そして具体的な数値はまだ出ていませんが、この器具の使用により発熱量も同時に減ることから、空調に関する消費電力も間接的に削減されることとなります。

また、2010年度も環境省の「CO2削減 ライトダウンキャンペーン」に賛同し、6月21日の夏至の日と「七夕クールアースデー」の7月7日の両日、午後8時以降10時までの2時間、ネオンサインや外灯を消灯いたしました。

ネオンサインや外灯につきましては、2011年3月11日の震災発生後より消灯を続けています。

さらに、飲料の自販機についてはエコ対応に順次交換を進めており、関西初のお目見えとなったソーラー発電付き自販機「e c o r /ソーラー」を扇町公園側に設置し、自販機の夜間照明をソーラー発電分でカバーしております。

また、3年目に入った本社10階テラスの屋上緑化への取り組みとしましては、「サ

ツマイモ」に加え、新たに「ゴーヤ」を植えてヒートアイランド対策を続けています。

なお、6年目となった「クールビズ」の実施で、2010年6月から9月の4ヵ月間のエネルギー使用量（原油換算値）が、2009年の98.9%となり、酷暑の夏ではありましたが、省エネルギーを実現しました。

2011年度は電力消費の問題が深刻であることに鑑み「クールビズ」の実施を半月早め、さらなる省電力・省エネルギーに全社挙げて取り組んでいくことにしています。

（3） CSR活動の向上を目指して

1) ACAP関連の活動について

現在当社は、ACAP（消費者関連専門家会議）に属しており、番組視聴者の方々と接する業務を行う部署を中心に、ACAPの西日本支部例会に毎月出席し、交流を深めています。

2010年はACAP創立30周年ということで、9月28日に記念シンポジウムが大阪で行われ、消費者庁長官から、「消費者庁創設から1年を迎えて」と題した基調講演をいただいたほか、「消費者、行政、企業間のコミュニケーションの深化を通じて安全・安心な暮らしを」と題したパネルディスカッションも行われました。

2) レピュテーションの研究について

前の項で紹介しましたACAPにおける活動だけでなく当社では、企業に関する研究に役立ってもらおうと、大学院のシンポジウムなどにも積極的に参加し、当社の経験などをお話ししています。

具体的には、2010年11月28日に開催されました神戸大学大学院経営学研究科主催のシンポジウム「グッド・レピュテーション企業の条件」にて当社社長が、約1時間の基調講演を行いました。

このシンポジウムは、企業のレピュテーション（いわゆる「評判」）が社会へ定着する過程において、ブランド、名声、信頼、顧客の支持などがより重要と認識されている中、具体的な企業の実践例から「良いレピュテーション」を改めて考えようと開催されたものです。

講演では、4年前の「あるある問題」で当社が信用を失って以来、再生委員会の答申を基本とした社内の態勢の確立や、社会へつながる活動などの再発防止策、再建策を丁寧に解説しました。

そして、それらの経験から「会社の内部をきちんと固めておかないと、簡単に崩れてしまう。レピュテーションの悪化を防ぐには、まず内部を固めることが一番大切」と述べるとともに、「回復は、やることははっきり見えている故、取り組みやすいが、レピ

レピュテーションを保持することは、存在する危険因子が非常に見えにくく難しい。絶えず危険因子がそばにあることを意識させる装置を作って、稼働させることがこれから大変必要になる」と今後に向けた構想を説明しました。

そして「レピュテーションは、ひとつの経営資源であると肝に銘じてやっていきたい」と会社の意思を示しました。

基調講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、神戸大学大学院の研究者の方々や、消費者関連専門家会議（ACAP）理事長とともに、現在の日本企業におけるレピュテーション・マネジメントの問題について様々な角度から意見を交わしました。

（４） 会見、ホームページ等、企業情報の開示状況

1) 放送事業者の責務としての企業情報の開示

放送事業者の責務を果たすため、当社は社長会見をはじめ、報道リリースやホームページ等で、業績、視聴率状況、番組改編情報等の開示に積極的に努めています。

また、問題・事故等、社会に与える影響が大きいと思われる事項の情報開示も、適宜行っております。

2) 社長記者会見

2010年5月28日の決算取締役会後、福井社長が定例記者会見を行い、2010年3月期の決算概要やコンプライアンス・CSRレポート等を公表いたしました。

8月5日、11月17日、そして2011年1月27日にも、社長が定例記者会見を行い、各四半期ごとの業績動向や視聴率状況を説明しました。

また、地上デジタル放送への取り組み状況、「S-コンセプト」制作状況、それにメディアリテラシー活動に関する説明も行ってきました。

また、各種媒体への社長個別インタビュー、業界紙への社長会見等も実施しました。

3) 社会的重要事項に関する情報開示

「Mr. サンデー」や「関ジャニ∞のジャニ勉」における不適切表現等、社会的重要事項に関する情報も適時開示しました。

4) その他ブリーフィング・報道リリース等

DVDや動画配信、それにデジタルサイネージの実証実験等、放送に関連する新規取り組みについて適時ブリーフィングを行いました。また、ザ・ドキュメント「あの日の僕に出会えたら」のギャラクシー賞受賞やメディアリテラシーイベント「オープンスクール@カンテ〜レ」の実施概要等も適時報道リリースしました。

5) ホームページでの情報開示

当社では、視聴者の皆様をはじめとしたユーザーの方の利便性を考慮し、番組情報、並びに企業情報を速やかにお伝えできるよう心掛けたホームページ制作を実施しております。

2010年度に当社ホームページにて開示した企業情報は以下の通りです。

- | | |
|------------|---|
| 4月 1日 (木) | 「代表取締役社長 ご挨拶」更新 |
| 4月23日 (金) | オンブズ・カンテレ委員会 特選賞決定 |
| 4月26日 (月) | 夏ドラマ「逃亡弁護士」主演決定 |
| 5月 6日 (木) | 「あの日の僕に会えたら」がギャラクシー奨励賞受賞 |
| 5月28日 (金) | 5月28日付け コンプライアンス・CSRレポート
(2009年度) |
| 5月31日 (月) | 平成22年3月期決算社長会見 (5月28日) |
| 6月 5日 (土) | 「ヘヴンズ・ロック~Heaven's Rock~」見逃し配信決定 |
| 6月24日 (木) | 「逃亡弁護士」見逃し配信決定 |
| 6月25日 (金) | 第69回定時株主総会及び「役員担務」について |
| 7月22日 (木) | iPhoneで「怪談グランプリ」の見逃し配信スタート |
| 7月27日 (火) | オンブズ・カンテレ委員会 第5回 概要 |
| 8月 6日 (金) | 平成22年夏季社長記者会見 (8月5日) |
| 9月17日 (金) | 「関ジャニ∞のジャニ勉」9月15日放送分の訂正及びお詫び |
| 9月22日 (水) | 11月7日 (日)に関西テレビ・本社で
オープンスクール@カンテ～レを開催します |
| 9月29日 (水) | 火曜夜10時ドラマ「ギルティ 悪魔と契約した女」
見逃し配信決定 |
| 10月 4日 (月) | 関西テレビが贈る極上の京都ムービー番組、海外へ
iPhone配信スタート |
| 10月29日 (金) | 関西テレビ2011年1月期ドラマ「美しい隣人」の
キャスト決定 撮影も快調 |
| 11月 5日 (金) | QTVで「関西テレビ おんてま」作品をケータイ動画
配信開始 |
| 11月17日 (水) | 11月17日付 コンプライアンス・CSRレポート
(2010年度上期) |
| 11月18日 (木) | オンブズ・カンテレ委員会 第6回 概要 |
| 11月18日 (木) | 平成22年秋季社長会見 (11月17日) |
| 11月19日 (金) | レコチョクで「関西テレビ おんてま」作品を
ケータイ動画配信開始 |
| 11月23日 (火) | 「ジェネラル・ルージュの凱旋」スペシャルドラマ、 |

- 来年1月2日 午後10時に放送決定
- 11月29日 (月) 「R-1ぐらんぷり2011」決勝戦のルールを大幅変更
- 12月22日 (水) 関西テレビが正面玄関にてデジタルサイネージ
実証実験スタート
- 12月24日 (金) 関西テレビとアクセルマークが提携「関西テレビおん
でま」作品をケータイ動画配信開始
- 12月25日 (土) 関西テレビでアニメ化決定！2011年1月11日より
「DD北斗之拳」を放送
- 2011年
- 1月 7日 (金) 火曜夜10時ドラマ「美しい隣人」見逃し配信実施
- 1月11日 (火) 関西テレビで放送中のアニメ「DD北斗之拳」
2011年1月12日より動画配信決定
- 1月28日 (金) 平成23年新春社長会見（1月27日）
- 2月 2日 (水) 火曜よる10時新ドラマ「グッドライフ」4月スタート
- 2月16日 (水) オンブズ・カンテレ委員会 第7回概要

第6 コンプライアンス態勢の構築

(1) リスクマネジメント態勢等の確立について

当社では2008年2月の五輪番組情報配信問題を受けて、当該部署の業務フローを見直すだけでは不十分と考え、同年3月26日の取締役会において、「リスクマネジメント態勢の確立に着手すること」を盛り込んだ内部統制決議の修正を決議しました。当社ではこれに基づいて、リスクの特定、評価、対処、PDCAサイクルの整備といった一連のリスクマネジメントシステムの確立に取り組んでいます。

その流れに沿って、2009年3月末に全社のリスク管理台帳並びに、リスクマップが完成し、2009年度に入りリスク管理のための組織態勢の変更や規程類の整備、さらには具体的なPDCAサイクルの構築に着手しました。

そして、「リスクマネジメント規程」を4月の取締役会で制定し、規程に基づき組織態勢を変更しました。

具体的には、役員を中心としたコンプライアンス委員会を新たに設置（従来のコンプライアンス委員会はコンプライアンス検証委員会に改称）し、その下部組織として、番組内容以外のリスクを統括するリスクマネジメント会議と、番組内容に関するリスクを統括する放送倫理会議を設置しました。

7月には、第2回のコンプライアンス委員会が開催され、リスクマネジメントシステムの基盤を構築するための基本方針等を決定しPDCAサイクルの本格運用が始まりました。

方針では、業務の多様化や社会構造の変化に伴うリスク要因増加に対応するため、2009年に作成されたリスク管理台帳をベースとし、その見直しを含めたリスクの洗い出しに始まる全社的なPDCAサイクルの実施やリスクマネジメント会議を通じた全社への意識浸透などが含まれています。

これを受け、リスクマネジメント会議で具体策が決定され、8月にかけて「リスク管理台帳」の更新作業を通じたリスクの洗い出しを各部署で行いました。さらに9月以降、それらリスクについての対応方針を判断し、具体的な対応を各セクションが決定してきました。

その後リスクマネジメント会議は、11月と2011年3月に行われ、PDCAのDとCの部分を確認し、現在Aの段階として2011年度に入りました。

これまでの作業を通じて、様々なリスク要因の存在と対応について幹部社員全員が共通の認識を持ち始めており、それらの問題についてライン職で深く話し合うシステムになってきています。

今後は、引継を含めた次のサイクルへのスムーズな移行をめざして、各部のコンプラ

イアンス責任者を中心とした全社的な意識の徹底をはかっていきます。

(2) 情報セキュリティ態勢について

前項のリスクマネジメント態勢の確立の一環として、当社では2009年4月「情報セキュリティ管理規程」「情報資産取扱要領」を施行し、全社で規程の実施・実行度を監査し、問題点を洗い出すと共に浸透を図る具体的施策を始めています。

そして、2年目となる2010年も事務局のコンプライアンス推進部・総務部・システム情報部が、各部署とやりとりを重ねながら各種台帳の洗い替えを実施し、より細かな管理態勢を取っています。

また、2010年2月の社員による個人情報を含むUSBメモリー紛失事案を受け、社内のシステムと繋がっているPCなどの機器からUSBメモリー等、外部記録媒体へのデータ書き込みについて、セキュリティ上許可されたものだけを可能とする制限を実施しました。

許可された機器については、その所在などを確認するため一定期間での棚卸作業を行っており、使用者の意識向上をはかるとともに、新たな管理態勢を確立させました。

さらに、重要ファイルについて、パスワード設定を義務化することにより、万が一紛失等の事態においても、簡単に情報流出しないような高いセキュリティレベルの態勢を実行することとなりました。

一方、印刷された文書を含む情報資産のより完全な管理に向け、重要文書の施錠状況の確認を全社で行い、不備があった場合の報告と対応を短期間で行い、施錠管理の完全化をはかりました。

このように2010年度は、当社の情報セキュリティレベルが飛躍的に向上した年度となりましたが、この状況に満足することなく、今後も社員への意識浸透をはかっていきます。

(3) コンプライアンス・ラインの運用について

当社では、社員等（社員、関係会社社員、派遣社員、業務委託社員、アルバイト等のすべての従業員、及び取引事業者の役員・社員その他の従業員）が、当社の業務に関する法令違反、社内規程違反又は企業倫理違反などのコンプライアンス違反行為等を発見した場合の内部通報制度として、2006年9月から“KTV・コンプライアンス・ライン”を定め運用しています。

この制度は、内部通報及び相談の窓口を社内（内部監査が担当）および社外（外部の

法律事務所に委託) に設置し、適切な処理の仕組みを定めることにより、当社のコンプライアンス体制を強化し、もって、放送事業者として社会からの信頼・期待に応えることを目的とするものです。

2011年3月末で、制度開始から4年半になりますが、この間に、あわせて14件の通報が寄せられており、調査を行ったものが10件、そのうちコンプライアンス違反と認定されたものは5件です。

第7 経営機構等について

(1) 改革推進本部の状況について

改革推進本部は、2009年6月1日に策定した「2009～2011中期経営計画」の具現化を目指して新設しました、社長を本部長、専務を副本部長、社長室を事務局とする社内横断的な組織で、初年度には「コンテンツ戦略」「財務体質強化」「業務改善」の3つの重要課題別プロジェクトチームを設置して議論を重ね、改革に具体的に取り組んできました。

そして2年目となる2010年7月には、初年度の成果や取り組んできた方向性を踏まえ、課題やミッションをより絞り込んだ3つのプロジェクトへの組み替えを行いました。

現在は「地上波ビジネスモデル強化」「人材育成・活性化」「収支構造強化」の3つのプロジェクトチームによる議論を重ねており、2010年末には本部長・副本部長に中間報告を行いました。まもなく、最終提言書をまとめ上げ、中期経営計画の具現化を加速するとともに、コンテンツ力、人材力、収益力をより高めるための方策を積極的に推し進めていきます。

(2) 関係会社とグループ政策について

現在、当社グループは、当社ならびに子会社8社から構成されており、放送番組制作などの事業を行っています。

そして、グループ一体経営の実現へ向け「グループ全体としての制作力強化」「グループ全体での効率的な経営」などを重点戦略と位置づけ、検討すべき課題については、必要に応じて子会社と協働して取り組んでいます。

2010年度には、ITを中心とするグループ経営基盤強化を目的として、ソフトウェア開発やシステム運用・保守を主たる業務とする子会社と、外部コンサルティング会社を交えたプロジェクトチームをスタートさせ、2011年4月からグループ全体でのIT部門体制を立ち上げています。

また、2011年3月期から企業グループの一体性を高めるために、「連結納税制度」を導入しました。

第8 放送人倫理の確立に向けた 教育・研修等

1)社内研修

当社では、2007年制定した「関西テレビ倫理・行動憲章」をベースに、全社員の放送人としての倫理の確立に向けた様々な社内研修を続けています。

2010年度も、4月に入社した社員に対し、まる1日にわたるコンプライアンス研修を行いました。この研修ではまず、当社が4年前に起こした捏造問題について、その経緯や調査委員会から指摘された事項、さらにはそれ以降現在に至るまでの再生の道筋などを時系列に沿って理解を深めさせました。

その他、個人情報保護法施行から5年となる区切りで、再びその重要性を認識するよう関係部署に所属する社員を中心に7月に研修会を行いました。

2)放送倫理・コンプライアンス研修会

2007年から、外部講師を招聘し講演と意見交換を行う「放送倫理・コンプライアンス研修会」と名づけた定期的な研修を行っており、2010年度も引き続き、講師をお招きして研修会を開催しました。

4月14日には、「あるある問題」から3年が経過したこの機会に、改めて企業にとっての不祥事を考えるといったテーマで、同志社大学法科大学院兼任教授で弁護士の山口利昭氏に講演をお願いしました。

山口氏は、内部統制システム構築、企業会計関連、コンプライアンス体制整備、独立第三者委員会委員、内部通報制度における外部窓口業務など幅広い企業法務に携わっておられ、それらに関連する知識を得ることができました。

研修会の参加者は50人を超え、業務等の都合で参加できない者のために、社内のLANシステムに音声データや講演詳細を公開して、随時内容を確認できるようにするとともに、支社等に向けてDVDを作成しました。

11月7日には別項でも紹介しましたが、当社のイベント「オープンスクール@カンテ〜レ」の場で、桃山学院大学文学部教授の境真理子氏らによるパネルディスカッション形式による「メディアリテラシー」についてお話しいただきました。

また、2011年度に入ってしまいましたが、4月11日には、「街場のメディア論」の著者で、元神戸女学院大学教授の内田樹氏が現在のテレビメディアについて等、考えをおられることを思う存分お話しいただきました。

2010年度の研修会は、再び放送倫理や企業倫理、社会への貢献などに関する知識や情報を身につけることのできる場としての役割も果たしました。今後も引き続き様々な分野の方々を招いて、倫理観の向上や、業務におけるスキルアップをはかっていきます。

第9 おわりに

最後までお読みいただきありがとうございます。当社は2007年1月の「発掘！あるある大事典Ⅱ」捏造問題をきっかけに、放送倫理に関する考えや企業活動を広く情報公開してまいりました。

今回のレポートも、当社の2010年度の活動をそれぞれの担当部局が自らの責任において執筆、公開したものです。それゆえ、同一の活動が部局を替えて複数回登場している場合があります。また、内部の議論や提案、取り組みをどのように本レポートに盛り込むかなど、苛まされながら書き記したことから、やや抽象的な表現になっている箇所もあります。

しかしながら、執筆した者全員が、企業の社会的責任を肝に銘じ、これらの取り組みを行ってまいりました。皆様には、このような部分をお含みお許しいただき、この「コンプライアンス・CSRレポート」によって、当社を少しでも多くご理解いただければ幸いです。

当社は、放送事業者として克服すべき様々な構造転換を実施し、今後も新たな収入源を模索し売上の増加を目指す一方で、資源配分を再検討し、持てる力を放送に集中させていきます。

また、役員・社員の一人ひとりが放送人として高い志を持ち、これまでも増して高度な専門性を身につけ、より信頼性の高い、社会に不可欠な公共的役割を担い続けるべく努めていきます。

今後とも、よろしくご指導いただきますようお願いいたします。